

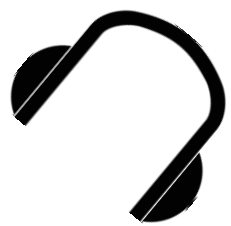
F

A

B



abcdefghijklmnopqrstuvwxyz...



E

English

C

D

G

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 8-C

9 マコト (Makoto) が、音楽レッスン (Music Lesson) のチラシをジュリア (Julia) に見せています。【チラシ】の内容と、2人の【会話文】を読んで、(1) ~ (4) の質問の答えとして最も適切なものを、ア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

【チラシ】

Music Lessons	
Piano Lessons (private*) Wednesday and Friday	(1) 【チラシ】の内容について、正しく述べているものはどれですか。 ア ギターのレッスンは週5日ある イ ピアノのレッスンは週2日ある ウ ギターのレッスンは土曜日と日曜日にはない エ ピアノのレッスンは水曜日にはない
Guitar Lessons (5 - 10 people) Monday, Tuesday and Saturday	
Morning class: 10:00 - 11:30 Afternoon class: 15:30 - 17:00	
Evening class: 18:00 - 19:30	

○ 調査問題の趣旨・内容

「素材と会話文を読んで、重要な内容やことがらを理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 英語の文章を読んで、チラシの内容についてたずねる質問に対する答えを選ぶ。

【作成の趣旨】 この問題はチラシに書いてある情報の中から、必要な情報を読み取ることができるかをみる問題である。この問題のポイントは、曜日を表す英語を正しく身に付けておくとともに、必要な情報を得るための読み取りを正確に行うことが求められる。

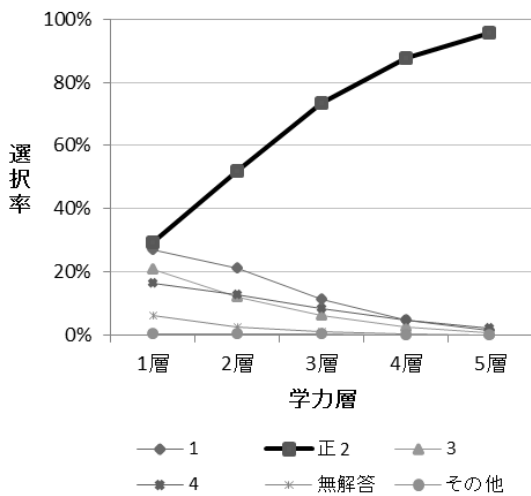
○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	1 アを選択	②正答 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
素材と会話文を読んで、重要な内容やことがらを理解できる。		12.7%	68.8%	8.0%	8.6%	1.9%	0.2%

選択肢の日本語の英訳が、チラシの中にそのまま表現されているわけではないので、正答を導くためには読み取った情報を整理し、解釈する必要がある。誤答の選択率としてはアを選択した生徒が多い。キーワードと数字の情報について、その意味を正しく読み取らず、短絡的に結び付けて解答していると考えられる。

選択肢	選択肢の分析
ア ギターのレッスンは週5日ある	guitar と Guitar Lessons (5-10 people) の5が「5週」ではなく、人数を表すことが理解できずに解答したと考えられる。
イ ピアノのレッスンは週2日ある	正答
ウ ギターのレッスンは土曜日と日曜日にはない	曜日を表す語について、つづりと意味を正確に結び付けて理解できていない可能性がある。
エ ピアノのレッスンは水曜日にはない	

○ G - P 分析



- 学力層が上がるほど、正答の選択率が高くなっているが、いずれの学力層においても、正答の選択率が他の解答類型の選択率を上回っている。
- 無解答率は、全ての学力層において低い。
- 1層～2層では、誤答として類型1の選択率が高く、数字の表している情報を正しく把握できていないと考えられる。
- 3層～4層では、誤答類型の違いによる差は見られない。

○ 指導上の改善ポイント

英文を読むといっても、その目的は様々である。例えば、手紙やチラシ、ポスター等であれば、自分に向けられたメッセージを読み取らせることなどが目的となる。また、物語文であれば、具体的な場面、状況、登場人物の気持ちや段落ごとの構成などを捉えながら話の筋を追わせることなどが目的となる。

いわゆる翻訳のように、英文和訳を目的に英文を読むことは、実際の言語の使用場面においてはあまり多いとは考えられない。英語学習の初期段階では、英文の読み取り方について、ある程度の指導は必要となるが、**普段の授業においては、英文の目的に合わせた読み取りを行わせるよう教師が意識するとともに、いわゆる英文和訳が目的とならないよう留意したい。**また、**多様な英文に数多く触れさせ、目的を持って読むことに慣れさせる**ようにすることが大切である。

必要な情報を得ることを目的として読ませる指導

英文を読ませる前に課題を明示することで、目的を持って主体的に読ませるようにする。その上で、様々な形式の英文に触れながら、リーディングの経験を繰り返し積むことで、語彙や文法などについても定着が期待できる。

<指導例>

(1) 帯活動など短時間で継続的に行う活動 (Reading Time 等)

内容に関する質問を先に示し、様々な形式の英文から、必要な情報を短時間で読み取る練習を継続的に行う。

例：日記、手紙、短いエピソード、ポスター、新聞の見出し、取扱説明書、観光地の英文パンフレット (外部検定試験の過去問題、インターネット上の広告や案内、卒業生の作品等から)

(2) プロジェクト活動における情報収集を目的とした活動

目的に応じた情報を取捨選択して活用する機会を授業の中に設ける。リーディング活動やリスニング活動で得た情報から必要な情報を読み取らせ、読み取らせた情報を整理し、整理した情報をもとにスピーキングやライティングによる表現活動につなげていく。

【プロジェクト活動の例】

読ませる英文	読み取らせた内容をもとに行わせる表現活動
観光地の案内 (英語版)	観光地の紹介文やオリジナルのパンフレット作成
海外の学校の情報 (インターネットを活用)	自分たちの学校紹介 (英語による要約版)
料理のレシピ (英語版)	自分たちでレシピを作成 (郷土料理など)

生徒の主体的な学びにつながるよう、ペアやグループなど学習形態を工夫したり、複数の資料を用意して、ジグソー法などで行わせたりすることも効果的である。



○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 11-B


9 マコト (Makoto) が、音楽レッスン (Music Lesson) のチラシをジュリア (Julia) に見せています。【チラシ】の内容と、2人の【会話文】を読んで、(1)～(4)の質問の答えとして最も適切なものを、ア～エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

【チラシ】

Music Lessons

Piano Lessons (private*)
Wednesday and Friday

Guitar Lessons (5 - 10 people)
Monday, Tuesday and Saturday



Morning class: 10:00 - 11:30
Afternoon class: 15:30 - 17:00
Evening class: 18:00 - 19:30

【会話文】

Makoto: Look, I go to ① this guitar class every week.
Julia: Oh, do you play the guitar?
Makoto: Yes, I do. The teacher is really nice. He teaches* the piano, too.
Julia: When is your class?
Makoto: It's on Saturday. I go to his morning class. We have seven people in our class now. My sister takes* his piano lesson every Wednesday.
Julia: Do you practice the guitar every day?
Makoto: Yes. I practice it after school. Oh, do you know Takumi? He goes to the evening class on Saturday.
Julia: Really?
Makoto: Yes. Sometimes he comes to the morning class, and I meet him there. After the class, we often listen to music.
Julia: ② (X)
Makoto: He often comes to my house.

(注)* private: 個人の teach: 教える
take: (教科などを) 受ける

(3) ③ (X) に入れる文として最も適切なものはどれですか。

- ア Where does he come from?
- イ When does he come to the class?
- ウ Where do you listen to music?
- エ What time do you listen to music?

○ 調査問題の趣旨・内容

素材と会話文を読んで、重要な内容や事柄を理解できるかどうかを見る問題

- 【問題内容】 英語で書かれたチラシと、そのチラシについて会話をしている英文を読んで文全体の流れから適切な質問文を選択する。
- 【作成の趣旨】 初めて見る英語の長文問題の内容を理解し、英文の前後の流れから適切な質問文を選ぶことができるかどうかをみる問題である。疑問詞の用法を理解していること、前後の英文のつながりから、誰に対して質問をしているのか、正しく主語を選べる力が必要である。

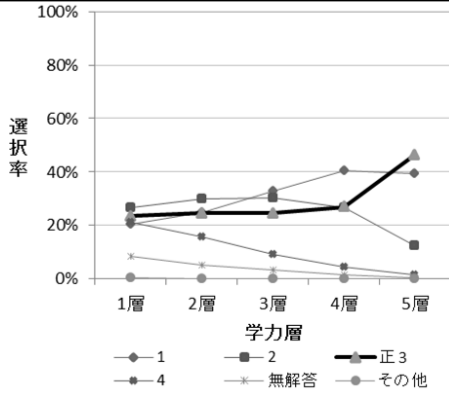
○ 誤答分析

	1	2	◎正答 ウを選択	4	無解答	その他
出題のねらい	アを選択	イを選択		エを選択		
英語の文章を読んで、文全体の流れから当てはまる英文を選ぶことができる	32.0%	24.8%	29.7%	9.9%	3.6%	0.1%

前述の9 (3) と同じ英文を用いた問題であるが、正答率には大きな差が出ている。選択肢のアとイの正答率が比較的高くなっていることとして、主語が **he** であることが影響していると考えられる。また、質問に対する答えの文が **He often comes to my house.** となっていることから、「彼 (タクミ)」について質問していると考えた結果、アやイを選んだとも考えられる。指示文である「主語」と「動詞」だけで解答を選んでおり、前後の英文を読み取れていない可能性が高い。

選択肢	選択肢の分析
ア Where does he come from?	Makoto の台詞、 He comes to my house. から、場所を聞く表現 (Where ~?) を用いることは理解できている。空欄の前後に、 comes to ... を含む文があることから、選択した生徒が多かったと考えられる。
イ When does he come to the class?	空欄の2つ前の文に、 morning class があることから、「いつ」と時をたずねる表現 (When) を選んだと考えられる。
ウ Where do you listen to music?	正答
エ What time do you listen to music?	「音楽を聴く」ことに関する質問であることは捉えられたが、Makoto の台詞 to my house の部分から where を導き出せなかったと考えられる。

○ G - P 分析



- 正答率が 29.7%の問題である。
- 1層では、選択肢の1～4を選んだ生徒が 20%台であり、どの選択肢を選んだらよいか迷った生徒が多いと考えられる。
- 1層から4層の生徒の正答率は 20%台であるのに対し、5層の生徒の正答率は 46%である。このことから、学力により正答率の違いが著しい問題である。
- 1層から4層までのどの層においても類型1を選ぶ生徒が多い。文章全体の流れを捉えずに、疑問詞だけを見て解答を選んでいる生徒が多いと考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

誤答としてもっとも多かったのは、Where does he come from?であった。

疑問詞への理解はあるものの、英文の前後の流れを意識することや、誰への質問なのか「主語」を理解することに課題がある。**長文問題の中の登場人物や場面を想定し、まとまりのある英文を理解して読む**ことができよう改善を図る。

長文問題を「読んで終わり」にしない指導

一斉指導で英文を「読む」だけで終わらせるのではなく、生徒の実態に合わせて段階的に、学習形態などを工夫しながら英語の長文を扱う授業の改善を行う。

段階	学習形態等	学習内容	指導の工夫									
1	個人	○ 時間を決めて、英文を読ませる。	● 読みとるポイントを示す。									
2	教師と生徒 ↓ 生徒と生徒	○ 日本語で、英文の内容の確認を行う。 「教師→生徒」で終わりにせず、生徒同士が「対話」を通して学びを深める工夫をする。	● 「いつ」「どこで」「誰が」などを尋ねながら、英文の流れを確認していく。 ● 最初は教師から生徒へ、 慣れてきたら生徒同士で相互に質問させる。									
3	学習形態 小グループ ↓ 個人 活動内容 ワークシートの穴埋め ↓ 英語でメモ	○ 登場人物や場面を把握し、内容を整理させる。 (例) ワークシートを使って整理させる。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>楽器</th> <th>レッスン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジュリア</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マコト</td> <td>ギター</td> <td>土曜 午前</td> </tr> </tbody> </table> (例) 英語でメモを取らせる。 Julia: No lessons. Makoto: guitar/ Sat, Moring ○ 最終的には生徒が自分でメモを作成できることを目指す。 小グループの「学び合い」の活動から「個」の理解につなげられるよう指導の工夫を図る。		楽器	レッスン	ジュリア			マコト	ギター	土曜 午前	● イラストや表を用いて「視覚的」に内容を把握させる、虫食いのワークシートで穴埋めをさせるなど、 英文を整理しながらまとめさせる。 ● 生徒の実態に合わせ、段階を追って、英文の内容を、捉えさせるようにする。 ● 一部の生徒だけでなく、全ての生徒が「理解できる」ようにするため、①全員で取り組ませるようなタスクを与える、②習熟度に応じた複数のワークシートを用意する、③ペア、グループ等の学習形態を取り入れるなどの工夫をする。
	楽器	レッスン										
ジュリア												
マコト	ギター	土曜 午前										
4	個人	○ 読んだ長文についてのT-FクイズやQ-A ⇒ 生徒の内容理解の見取を行う。	● 答えについて、生徒に理由や根拠を考えさせる。									
5	個人 小グループ	○ 英語 (あるいは日本語) で要約を作成させる。	● キーワードやイラストを示しながら進めていくのもよい。									

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 10-B

【リスニング問題】

2 これから放送される (1) ~ (4) の英語の話しかけを聞いて、それに対する
答えとして最も適切なものを下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) <放課後、男の子が友達に>

- ア Sorry, I didn't bring mine.
- イ Sorry, I have to study.
- ウ No, I didn't see that.
- エ No, I don't like sports.

放送文: Do you want to see a movie with me tomorrow?

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の応答として適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

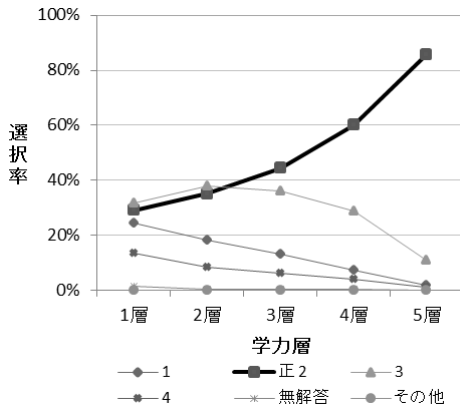
【問題内容】 提案に対して、適切な答えを選択する。

【作成の趣旨】 この問題は、相手の提案を聞いて、それに対する答えとして適切なものを選択することができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、映画に誘われているが、理由があつていけないということ相手に伝え、丁寧に断る点である。単に、Yes や No で答えるのではなく、質問に正対した理由を伝えた上で、断ることができる力が求められる。

○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	1 アを選択	②正答 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
会話の応答として適切なものを選択することができる		12.8%	51.5%	28.8%	6.5%	0.4%	0.0%
大問2 (3) <リスニング問題・質問に対する適切な答えを選ぶ>							
選択肢	選択肢の分析						
ア Sorry, I didn't bring mine.	断る際に、Sorry を用いて謝ることができるという知識はある。しかし、その後の理由までは理解できず、didn't につられて選んでいると考えられる。						
イ Sorry, I have to study.	正答						
ウ No, I didn't see that.	質問が Do you ~? の疑問文のため、No を使って断ろうとしたと考えられる。さらに、see 「見る」という動詞から movie と関連があると予想したため、誤答の選択率が最も高かったと考えられる。						
エ No, I don't like sports.	No を使って断ろうとしているが、sports という単語を選んでいることから、質問の内容を理解できていないと考えられる。						

○ G - P 分析



- 5層の正答率は80%を超える一方、4層で約60%、3層で約45%、2層で約35%、1層で30%弱の正答率であり、学力により正答率の違いが著しい問題である。
- 類型3 (ウ) の選択率は、1層～3層の間で大きな変化はなく、一定の割合の生徒が誤答を選択している。一方で4層～5層では、誤答選択率が急激に下がっている。
- 類型1 (ア)、類型3 (ウ) の選択率は、1層～5層になるに従って下がっている。一方で、類型4 (エ) の選択率は、1層～5層で大きな変化はない。

○ 指導上の改善ポイント

最も多かった誤答はウの No, I didn't see that. であった。Do you ~? で始まる質問には、必ず Yes / No で答えると捉えている生徒が多いと考えられる。また、質問文の中の movie (映画) という単語が耳に残ったため、see (見る) が含まれている (ウ) を選択した可能性が考えられる。これらのことから、次のような改善策が考えられる。

- ⇒ (1) 教科書を用いて、言語の使用場面や言語の動きに留意しながら会話活動を意図的に多くに取り入れ、積極的に聞く態度を身に付けさせる。
- ⇒ (2) 日常的にまとまった英文を聞かせ、Q-Aなどの対話的活動を取り入れる。生徒にとって興味・関心が高い内容やタイムリーな題材を用いて、まとまった英文意味を聞いて理解できるようにさせる練習を行う。

日頃の積み重ねから「まとまった英文を聞く力」や「英語で答える力」を育成する活動例

(1) 教科書を使用した対話的・主体的な活動例

教科書に載っている言語の使用場面に注目している題材 (買い物、道案内、空港のシーンなど) を利用して、ペアやグループでオリジナルの対話文を作成させ (writing 活動)、インプット活動を行う。その後、パフォーマンス・テストの際に発表を行わせ (アウトプット)、クラス全体に聞かせる。⇒生徒の代表に、聞いた内容の要約を英語で言わせる。
※ 要約が言えるように、全員が集中して聞くよう事前に伝えておく。(生徒の実態により、要約は日本語でもよい。)

<例> Tomoko wanted to buy a blue cap. But there was not a good size for her. So she bought a red cap.

発展

どんな生徒でも、課題解決に対して意欲や興味をもつような課題を設定する。



(2) 教科書以外の対話的・主体的な活動例

① Short Speech

毎時間継続的に、授業の導入時に Warm-up として、生徒が順番に1分程度のスピーチ発表する時間を設定する。

⇒ 聞いていた生徒がその内容についての質問し、スピーチした生徒が答える活動。

※ when, where, what, how, why, who など、疑問文のやりとりを意図的に行わせる。

<例> S1: I'll talk about my weekend. I went shopping with my family.

We had lunch at a restaurant. We had a good time.

S2: What did you buy?

S1: I bought a pair of shoes.

② Story Telling (物語を聞かせる) や Picture Telling (絵本を読み聞かせる)

⇒ 2~4人のグループごとに、聞いた話の概要について日本語で確認させ、発表させることで定着を見取る。

③ President Obama's Speech (2016年5月に広島島の原爆ドーム前でいったスピーチ) をビデオで見せて聞かせる。

⇒ 要約した英文を配り、簡単な感想を英語で言わせたり、書かせたりする。

<例> I was moved by his speech because he said about world peace. / I was happy that he came to Japan. / I think that it was important for us to think about the future.

小中連携

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 11-C

【読むこと】

4 次の英文 (1) ~ (5) の () に入れる単語として最も適切なものを、下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(3) A: () needs a pen?

B: I do.

- ア What
- イ How
- ウ Who
- エ Where

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の質問が完成するように適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 英文が完成するように、() に当てはまる正しい英語（疑問詞）を選ぶ。

【作成の趣旨】 この問題は、AとBの対話文において、Bが「私が必要としています。」(I do.) と回答している英文を読んで理解した上で、Aが「誰がペンを必要としているのですか」という質問をするために適切な疑問詞を選択できるかどうかを見る問題である。この問題のポイントは、①疑問詞の意味を理解しているということ、②疑問詞の who を主語にした、助動詞を伴わない疑問文の構造を理解していること、③I do. の do が need の代わりに使用されているの理解していることの3点である。

○ 誤答分析

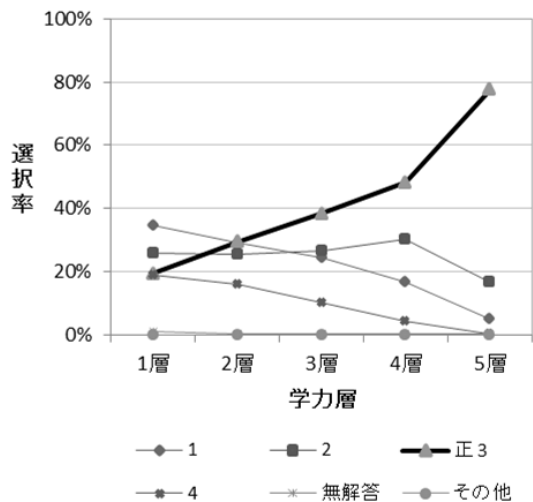
出題のねらい	解答類型	1	2	③正答 ウを選択	4	無解答	その他
適切な疑問詞を選択することができる	アを選択	21.6%	25.0%	43.2%	9.8%	0.5%	0.0%

誤答を選択する生徒には段階に応じて次のようなことが考えられる。

- ・疑問詞の意味が理解できていない。
- ・BのI do.のdoがneedの代用であるということや、対話のつながりを理解できていない。
- ・疑問詞のwhoを主語にした疑問文の構造が理解できていない。

選択肢	選択肢の分析
ア	whatの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、whatを選択している。また、疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。
イ	howの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、howを選択している。疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。
ウ	正答
エ	whereの意味が理解できていない。もしくは、答えのdoがneedの代用ということや、対話のつながりを理解せず、whereを選択している。疑問詞を主語にした疑問文の文構造が理解できていない。

○ G - P 分析



- 5層の生徒は正答率がおおよそ80%と高くなっているが、1～3層の生徒では正答率40%以下と低くなっている。4層の生徒でも50%程度の正答率である。
- 1層の生徒はWhatを最も多くの生徒が選択し、その後5層まで減少していく。一方、Howを選択する生徒は1層から4層まで増加している。
- 1～2層の生徒は質問と答えI do.の結びつきと、疑問詞が主語になる疑問文の文構造が理解できていないため、WhatやHowを選択する傾向にある。Whoはbe動詞や助動詞が続く印象が強いため選択されなかったと考えられる。また、I do.が場所でないということは分かったため、Whereを選択する生徒は少なかったと考えられる。
- 4～5層の生徒は、doがneedの代用だということに気づき、正答を選択する生徒が増加していると考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

この問題の正答率が低かった理由として、Aの質問が「主格の疑問詞を用いた疑問文」であるということや、その質問に対するBの回答がI need.ではなく、I do.という代動詞を用いたものであることが考えられる。これらは教科書に取り上げられている表現であるものの、会話の中に含まれている程度で、その表現が重要表現としてレッスンが構成されていない場合もある。従って、授業においても簡単な説明で終わってしまい、繰り返し指導等が行われず、生徒への定着が十分に行われていない可能性がある。しかしながら、このような表現は、高校入試や外部検定試験等においては、頻繁に出題される傾向が見られる。そこで、見落とされがちな重要表現などをまとめたリストを作成し、繰り返し定着を図ることで、生徒への十分な定着を図りたい。

作成したリストを含め、**生徒が身につけるべき資質・能力を明らかにしておく**。それらの資質・能力については、**学年や教科を横断する視点から、学校として定め、教員間で共有できるようにしておく**。



アクティブ・ラーニングの視点

【見落とされがちな重要表現などをまとめたリストの例】

見落とされがちな重要表現

lesson	Japanese	English
2-3	彼は中国語を話すことができます。	He is able to speak Chinese.
3 read	私と一緒にそこに行きましょう。	Why don't you go there with me?
3 read	私はアメリカに訪れてみたいです。	I'd like to visit America.
4-2	誰がこの部屋を掃除したのですか？	Who cleaned this room?
5-1	なぜあなたはそんなに怒っているのですか？	What made you so angry?
7-2	この本は私には難しすぎて読めません。	This book is too difficult for me to read.
7 read	私はとても忙しくて、宿題ができませんでした。	I was so busy that I couldn't do my homework.

○ 活用の方法

- ・ ペアで相互に、英語をインプットする活動や、英語を読んで日本語で意味を答える活動を行う。
- ・ 単元や学期のまとめの際に、確認テストなどを実施し、定着の見取りを行う。定着が十分でないものについては、全体で繰り返し指導を行う。

第4章

質問紙調査の分析

ねらい

学習指導や生徒指導、家庭への働きかけなどに活用できるよう、質問紙調査の内容を分析したものです。

ここで取り上げた内容については、日頃、学校で指導を行う際に参考になる内容であると捉えております。先生方におかれましては、これらのデータも根拠の一つとしながら、各学級の児童生徒の実態に応じた関わりのヒントにしていただければと考えております。

活用方法

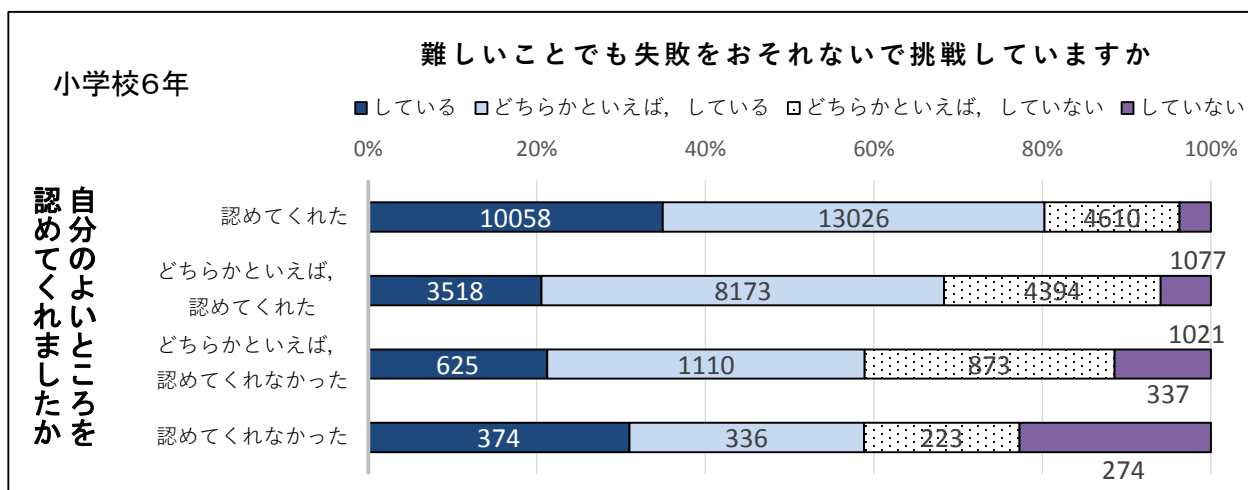
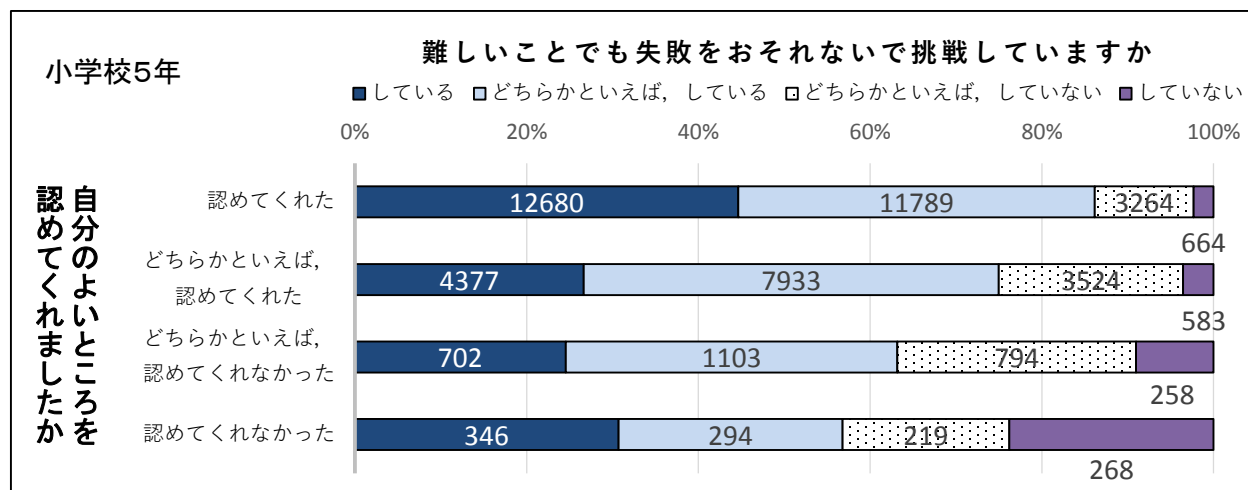
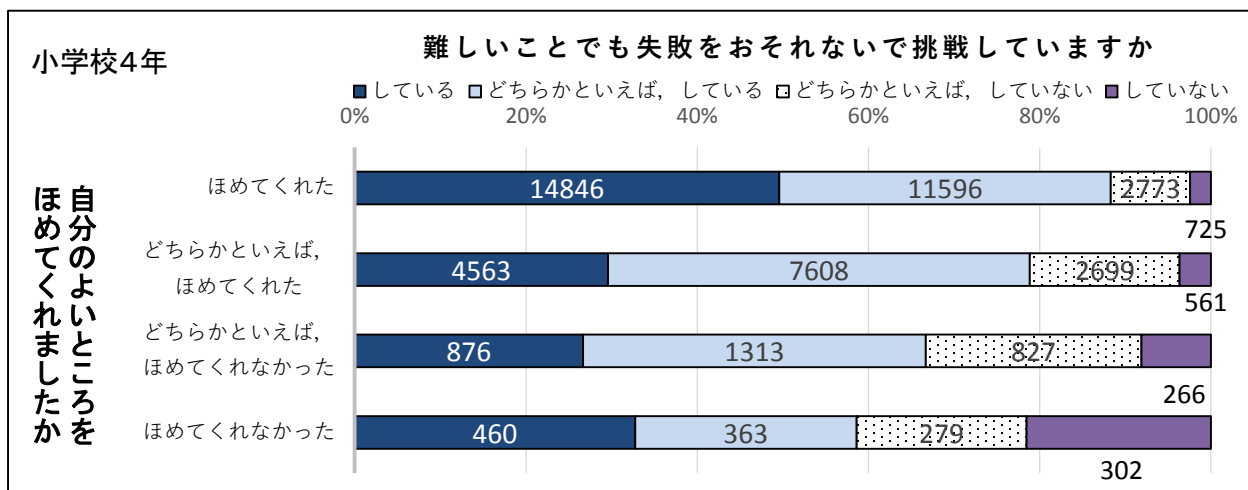
校内研修や保護者だよりの資料として御活用いただけます。

1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関

【概要】

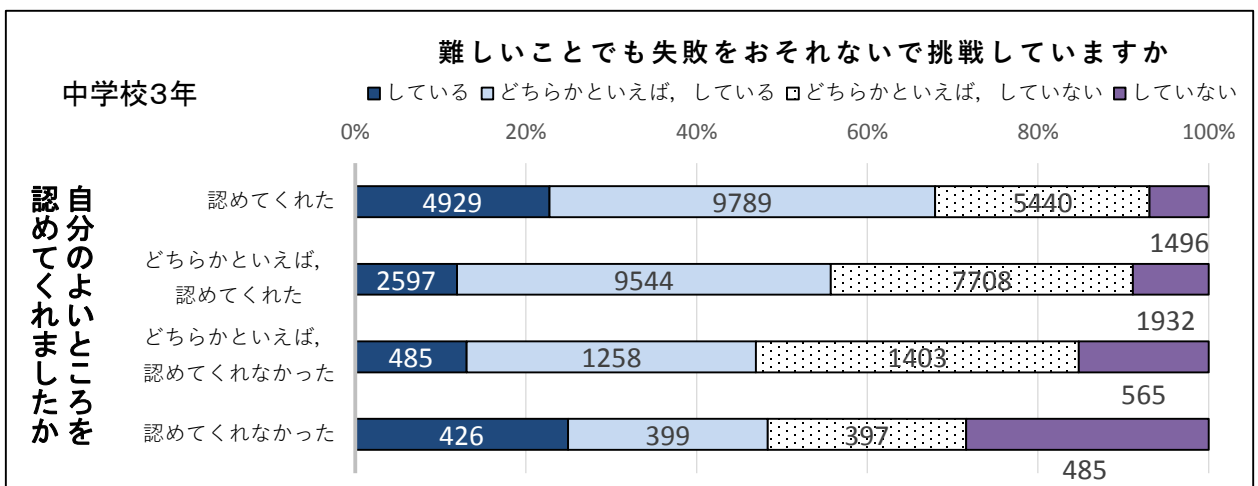
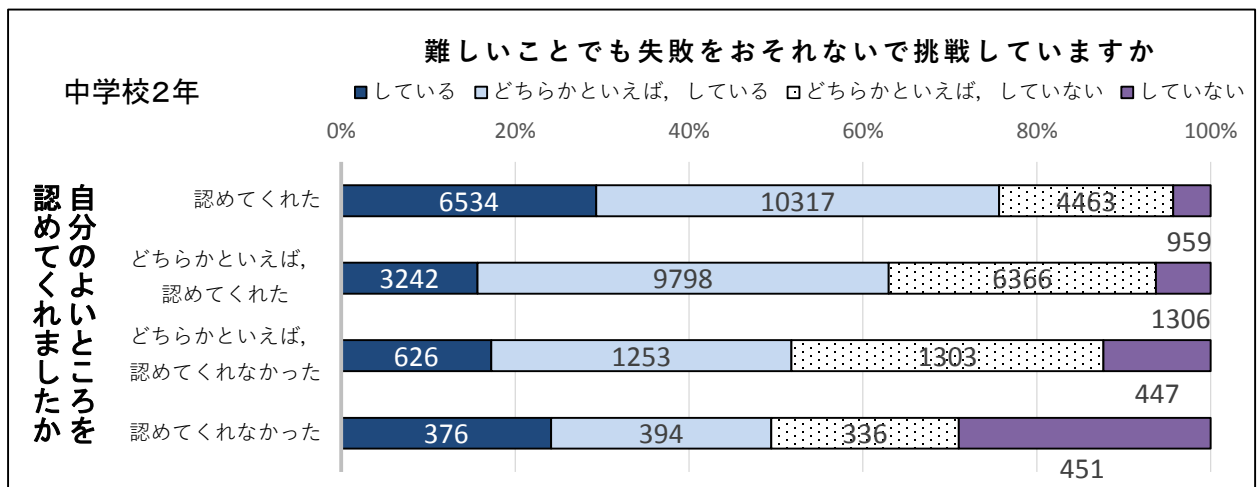
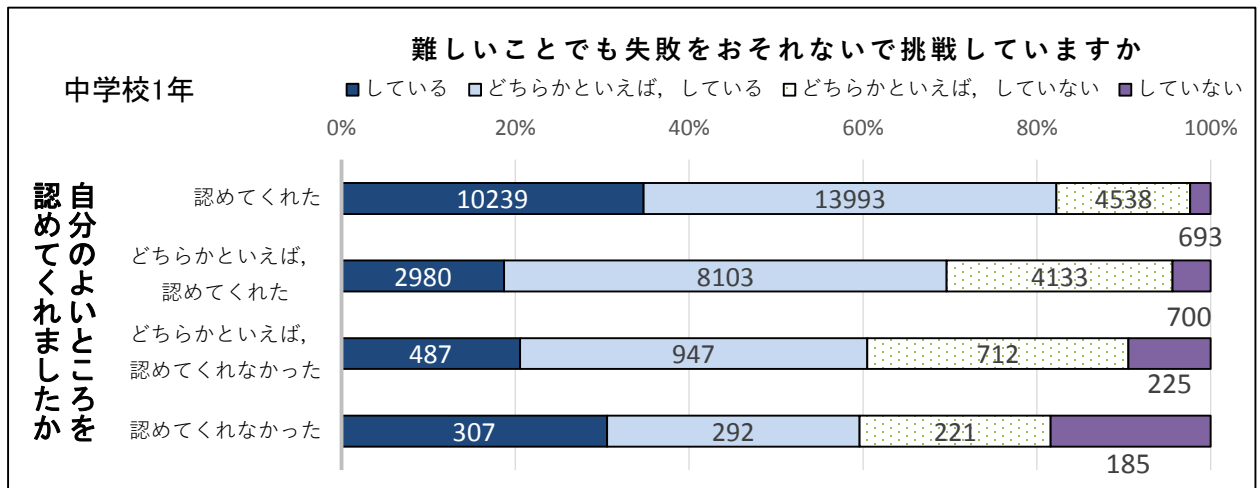
各学年を通じて、教員が「認めてくれた」「どちらかといえば、認めてくれた」という実感を持つ子供ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」と回答する傾向がある。

なお、小学生、中学生の多くは、教員から認められていることに対して肯定的に回答している。



【先生方へのメッセージ】

- 子供たちは自分の努力や良さを認められたり、ほめてもらえることによって、自己有用感や自信を高めていきます。
- 子供たちに機を逸することなく自信を持たせる言葉をかけをしましょう。
- ほめる、認める上で大切なのは、挑戦して失敗した時に、結果だけでなくその過程や子供の勇気、思いを認めることも大切です。

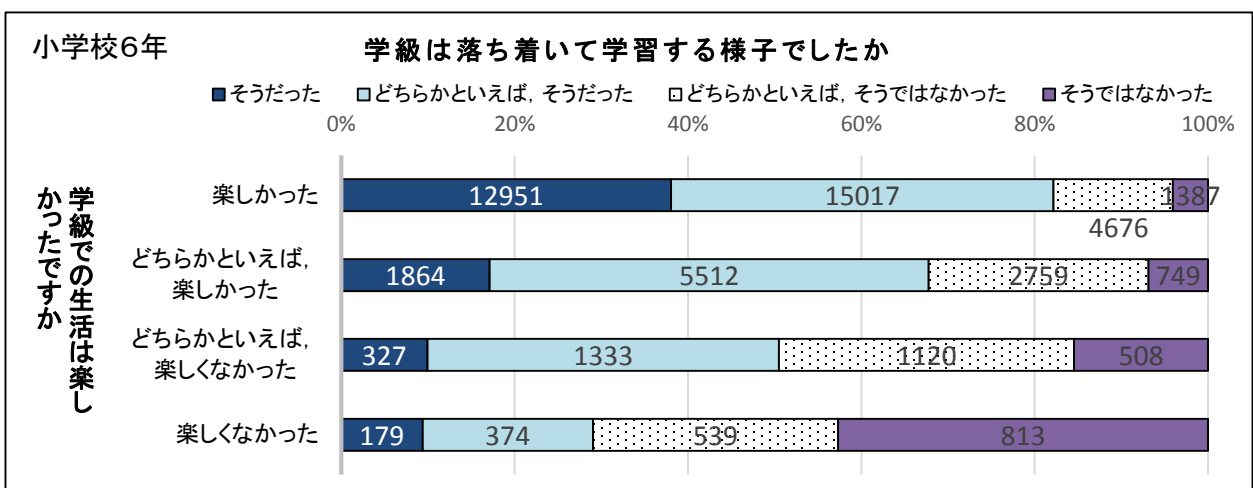
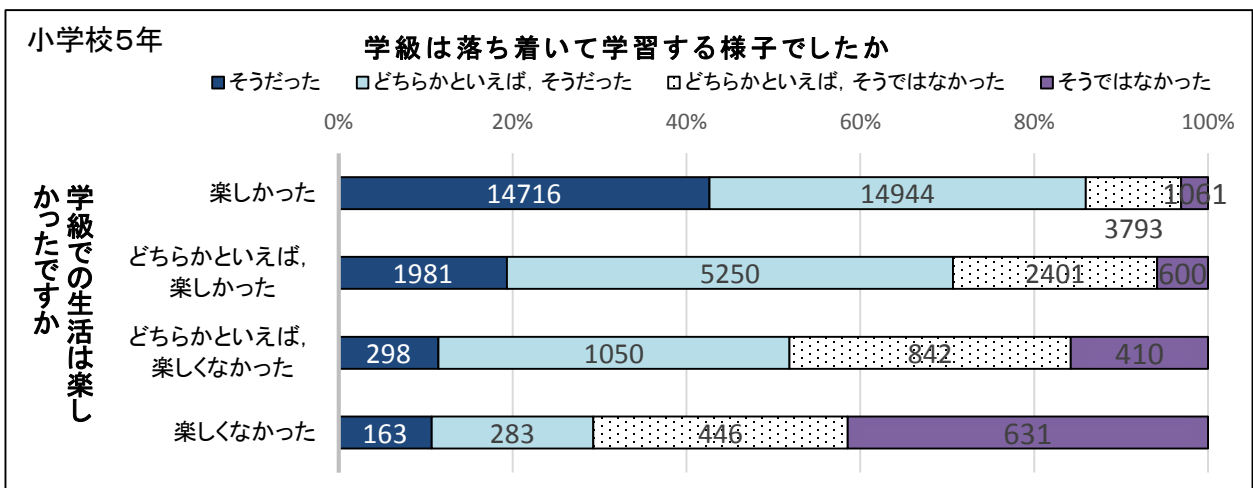
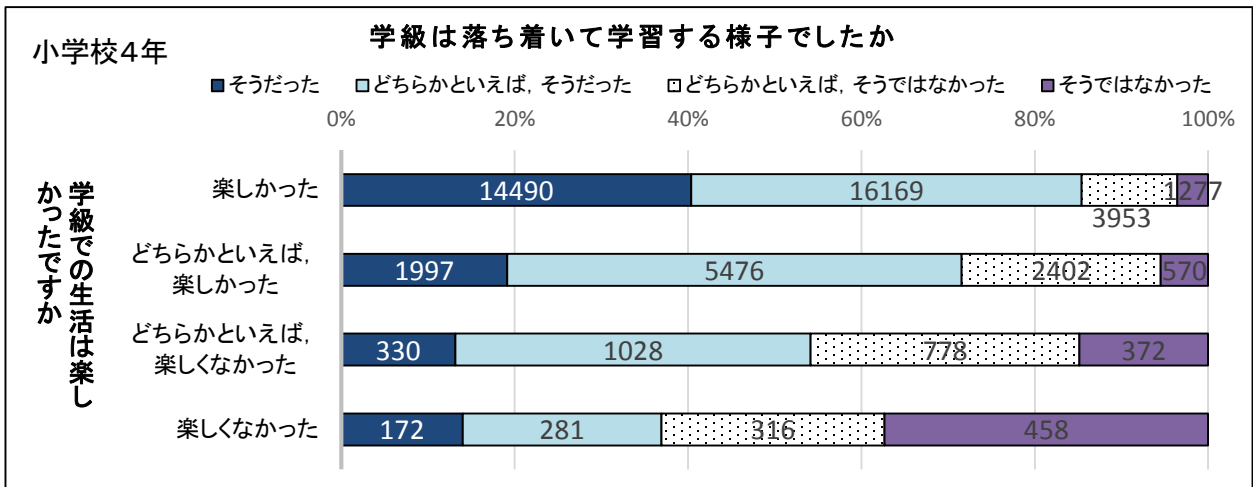


2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」に関する相関

【概要】

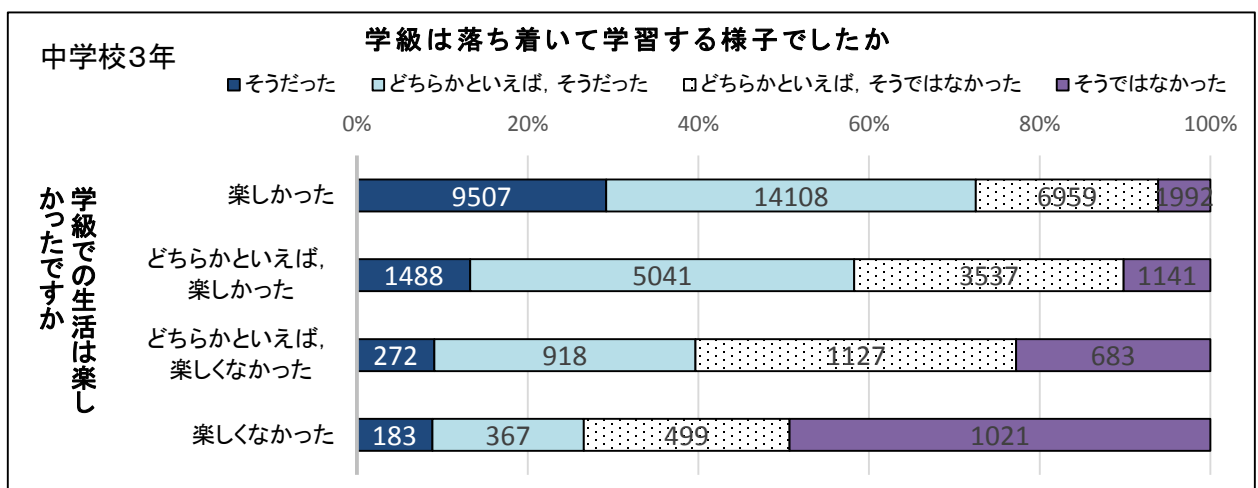
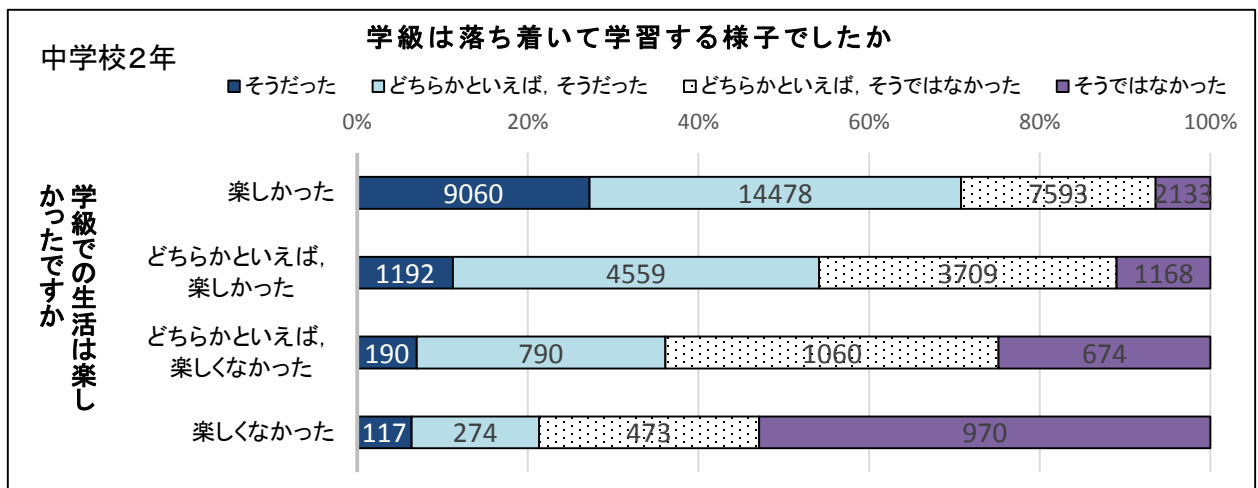
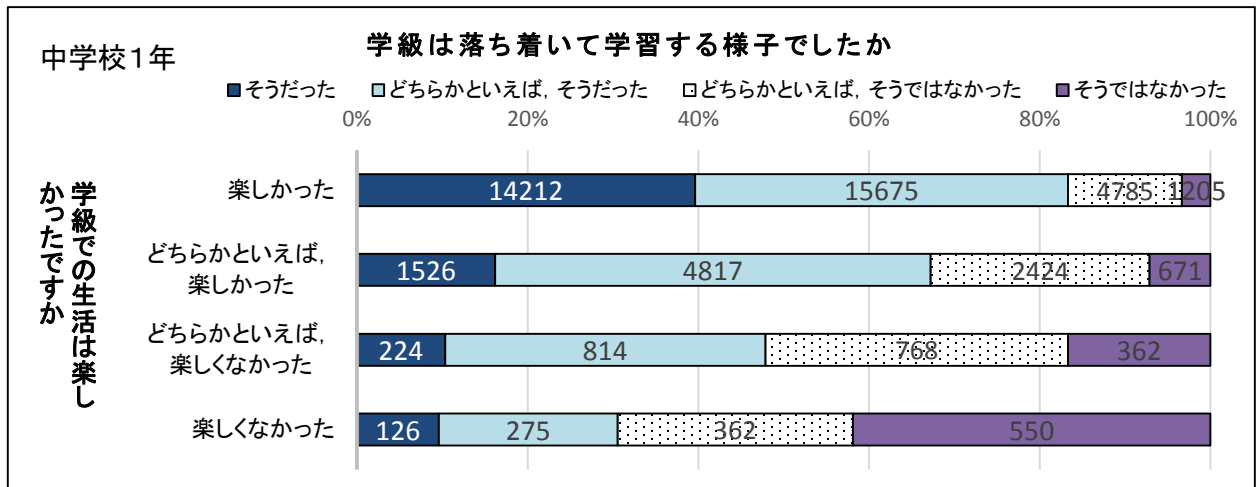
「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒は、学級の様子を落ち着いて学習していると考えている傾向がある。

なお、児童生徒の約90%以上が学級での生活を楽しんでいると考える傾向も各学年で共通している。



【先生方へのメッセージ】

- 自分の居場所があり、安心して生活できる学級は、子供たちの心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気醸成します。
- 学級づくりの充実は、学力向上にも効果があります。子供たちが楽しいと感じる学級づくりに日々取り組みましょう。

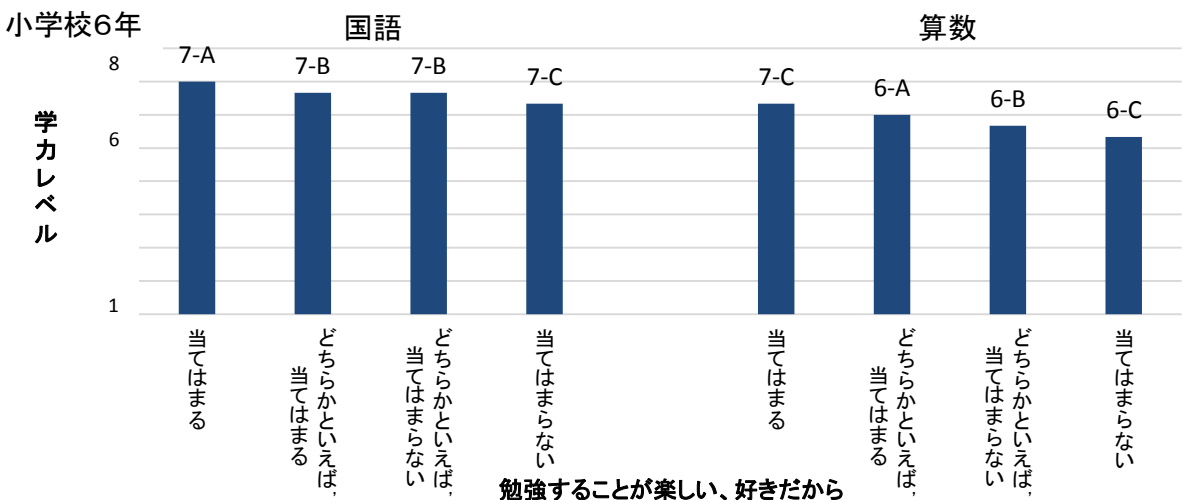
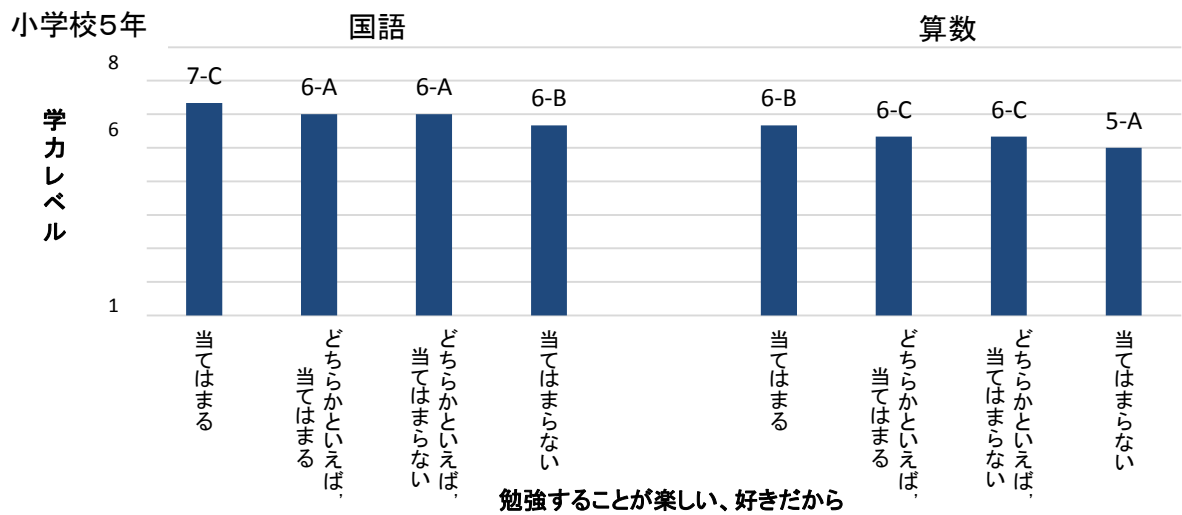
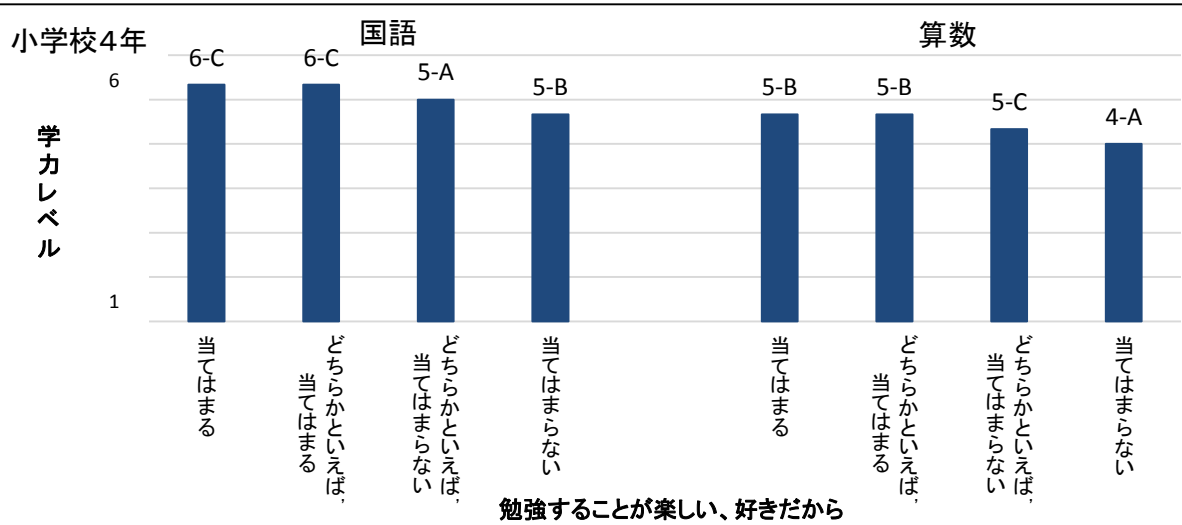


3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関

【概要】

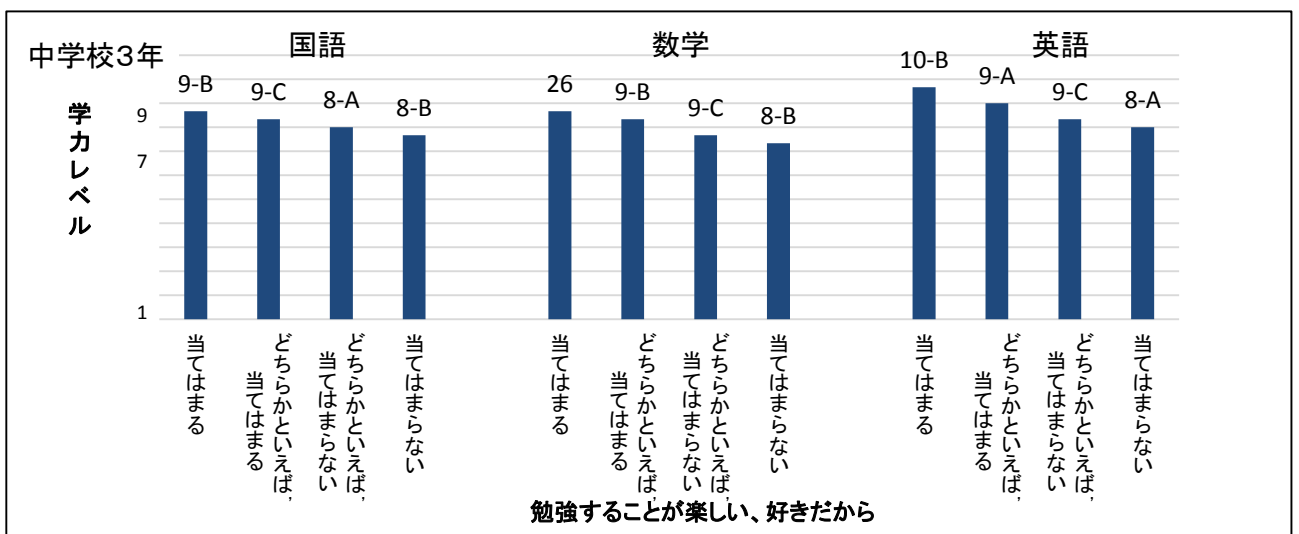
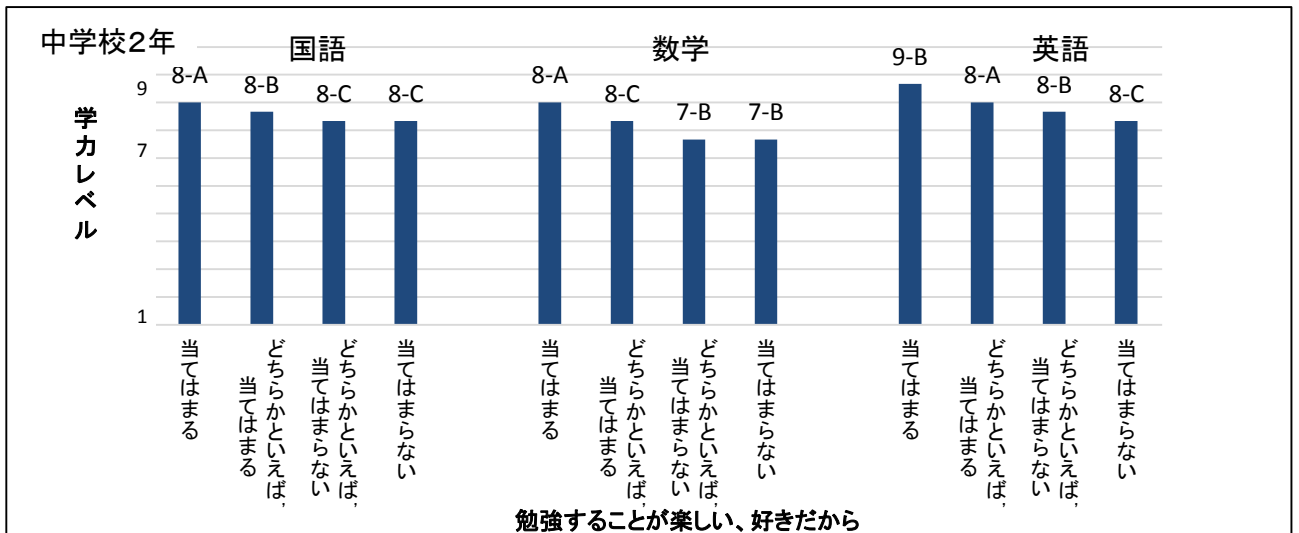
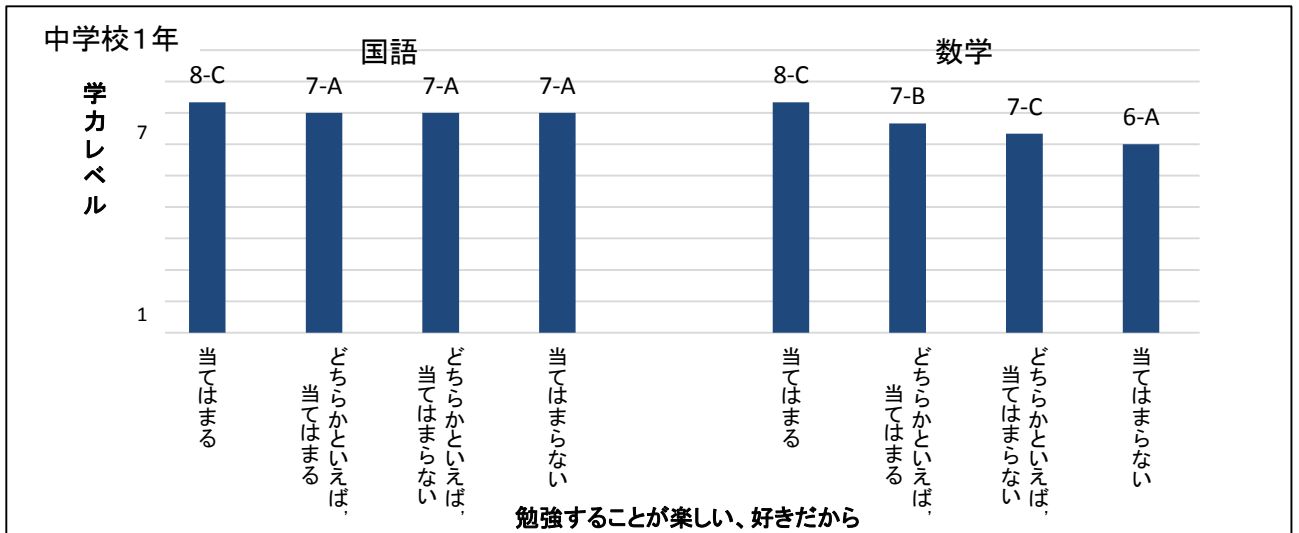
勉強する理由が「勉強することが楽しい、好きだから」と回答する児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが高い傾向がある。

学年が上がっていくと勉強が楽しいと感じることが減少していく傾向がある。



【先生方へのメッセージ】

- 「何かが分かるようになった、何かができるようになった」と子供たちが実感することは、学習意欲の向上につながっていきます。
- 教師が一人一人の子供たちの学習状況を把握し、わからなかったことがわかるようになる授業、できなかったことができる実感できる授業を研究していくことで、子供たちは勉強することが楽しい、好きだという気持ちを高め、学力レベルを高めていくことができます。



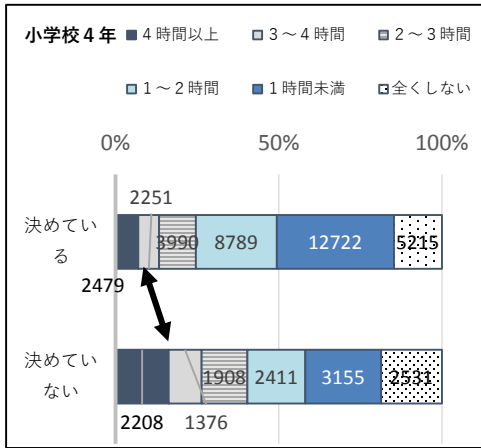
4 「家庭での生活習慣」に関する相関

【概要】

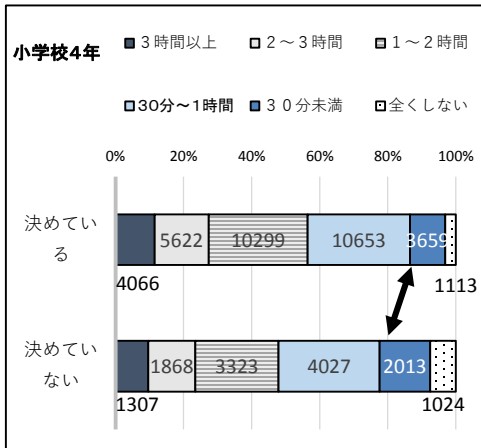
テレビゲーム等について「家の人と約束を決めている」と回答した児童生徒は、長時間テレビゲーム等を行うことが少なく、また、家庭学習の時間を確保している傾向がみられる。

なお、長時間テレビゲーム等をしている児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが低い傾向にある。

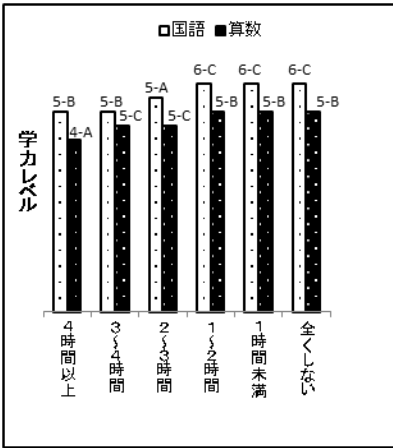
テレビゲーム等の時間(月～金)



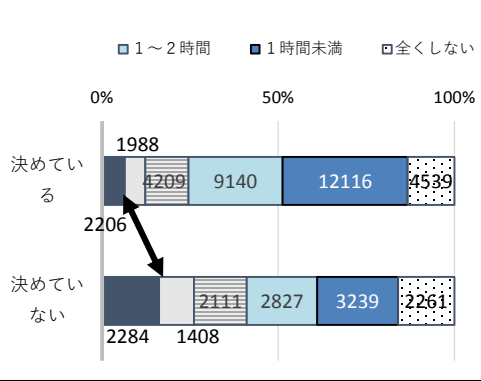
家庭学習の時間(月～金)



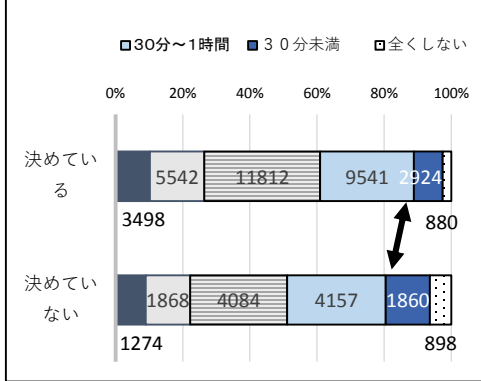
テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



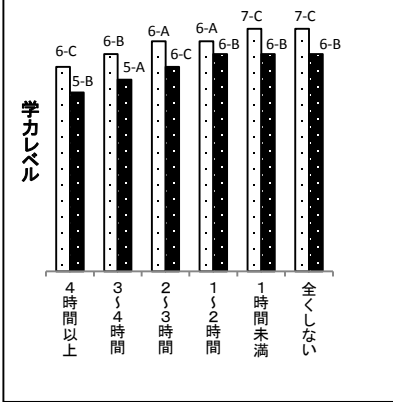
小学校5年



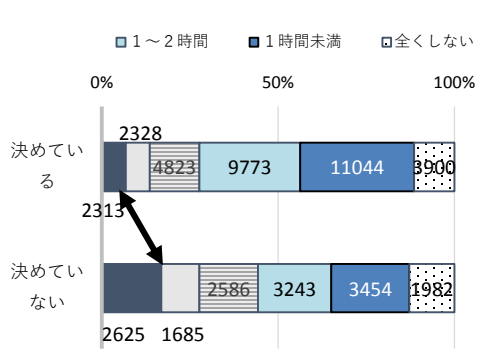
小学校5年



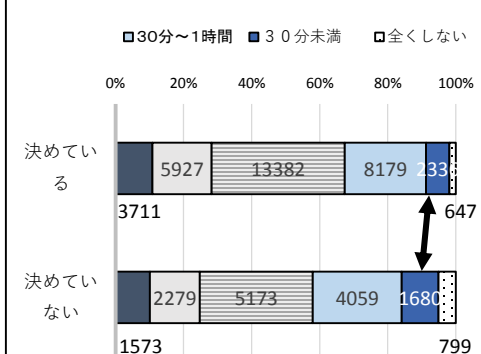
テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



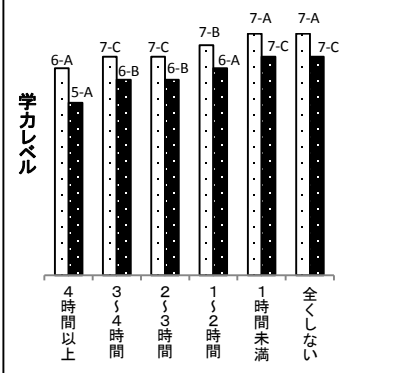
小学校6年



小学校6年



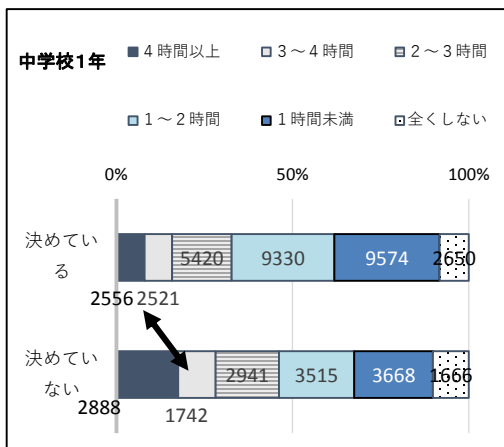
テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



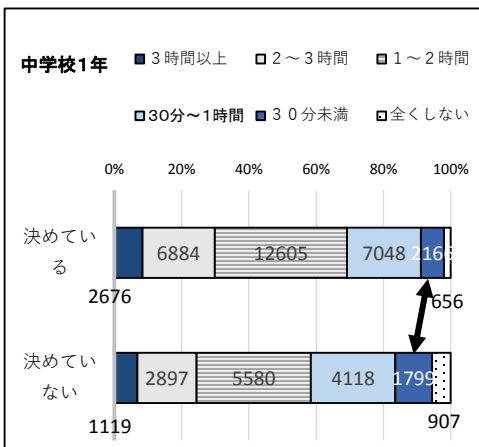
【先生方へのメッセージ】

- 子供たちが自分一人で家庭での学習習慣を上げるのは難しいことです。学校と家庭が連携し、子供たちが生活を見直すきっかけづくりをしていきましょう。
- テレビゲーム等を行う時間について約束するときは、話し合って約束を決めることが大切です。また、約束する必要性についても確認することで、子供が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことにつながります。

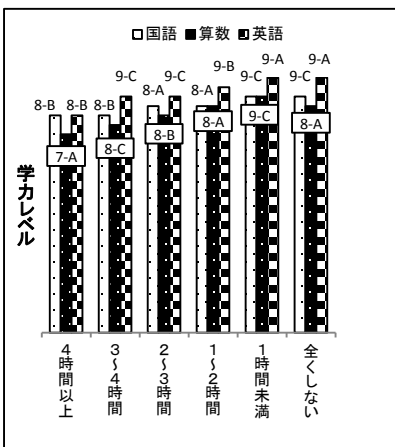
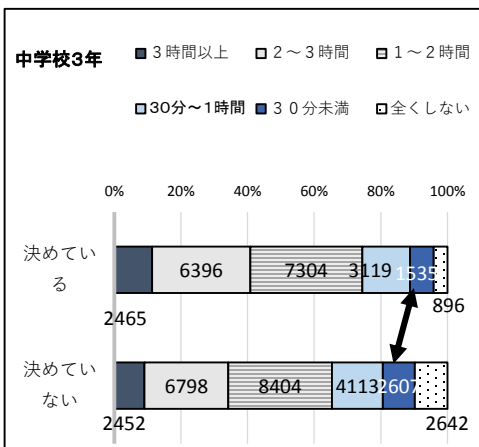
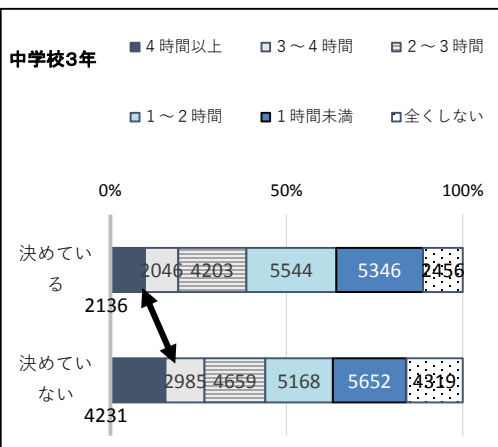
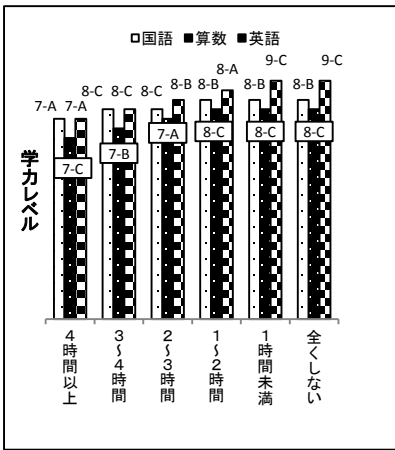
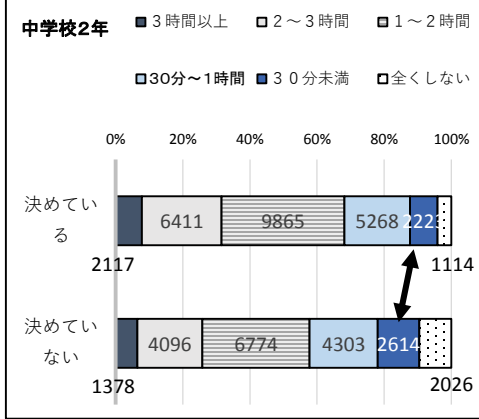
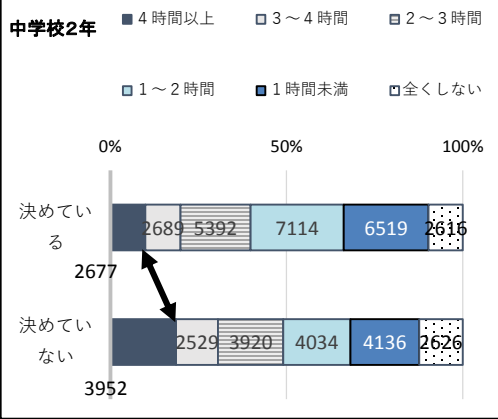
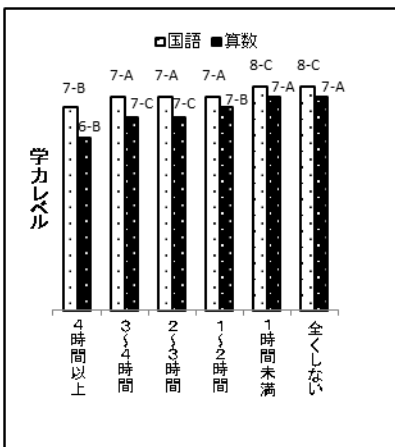
テレビゲーム等の時間(月～金)



家庭学習の時間(月～金)



テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関

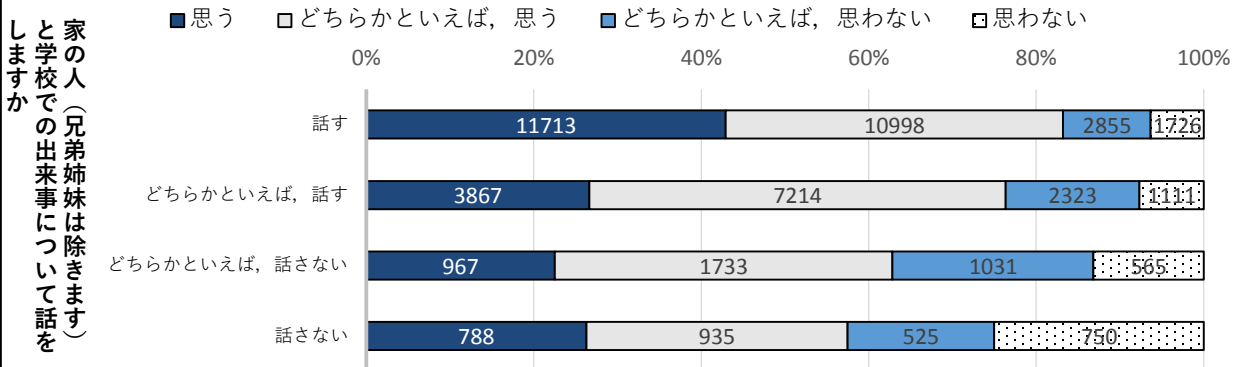
【概要】

各学年を通じて、「家の人と学校での出来事を話す」と回答する児童生徒は、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向がある。

なお、「自分にはよいところがあると思う」、「どちらかといえば、思う」と回答する児童生徒の割合は、学年が上がっていくと減少していく傾向がある。

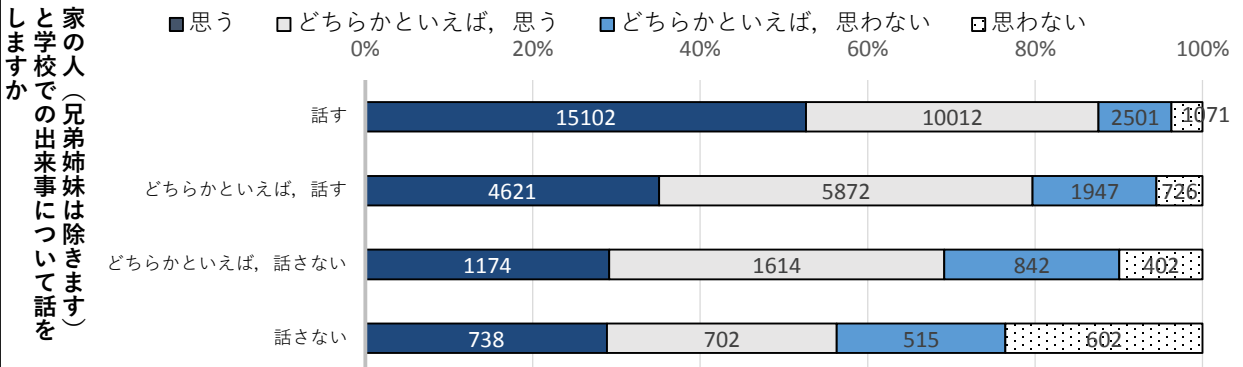
小学校4年

自分には、よいところがあると思いますか



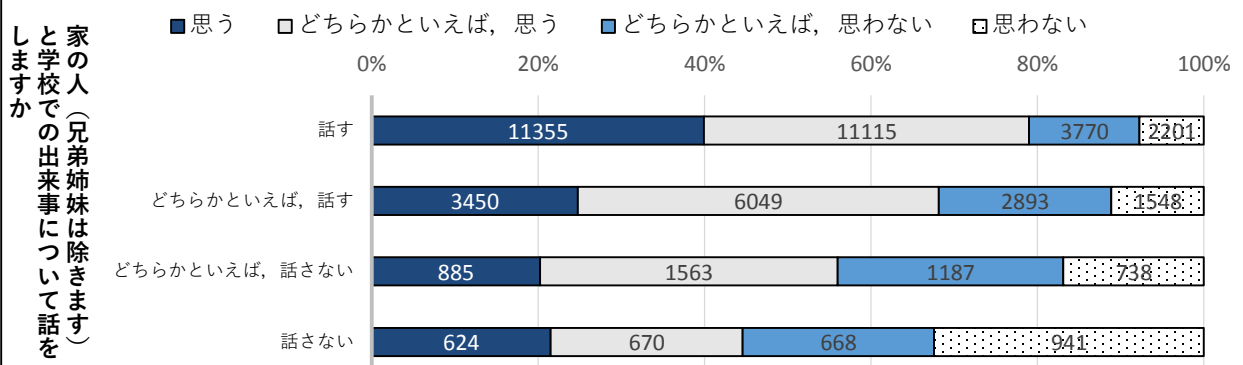
小学校5年

自分には、よいところがあると思いますか



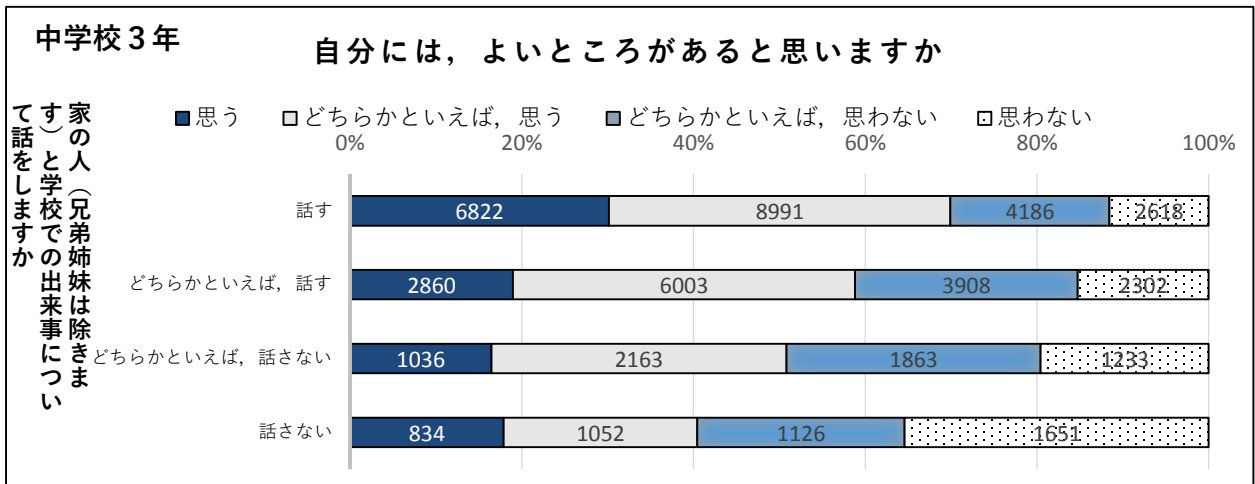
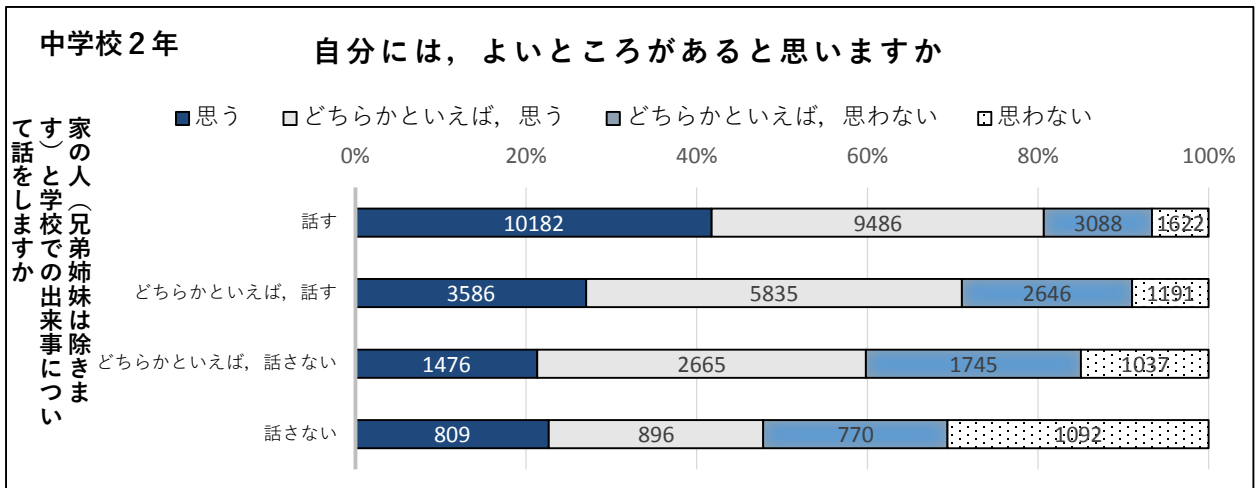
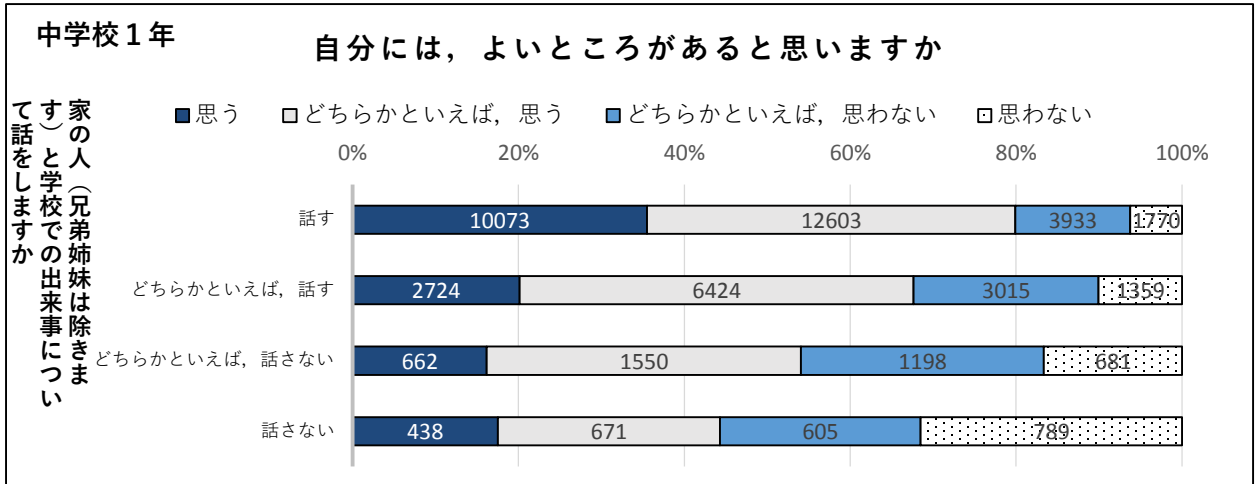
小学校6年

自分には、よいところがあると思いますか



【先生方へのメッセージ】

- 学校での出来事を家庭で話すことで、学習や学校生活を改めて振り返ることができます。
- 学校でほめられることが増えると、家庭で親に話すことも増えてきます。そしてそのことにより、子供たちの自己肯定感も育っていきます。
- 学校でも家庭でも、子供たちが自分のよさに気付くために「いいところ探し」ができるように働きかけていくことも有効です。よさに気づき、よさを伸ばし、よさを活かすことで自ずとウィークポイントも改善されていきます。



第5章

がんばる学校の紹介

趣 旨

学校が本調査を活用し、創意を生かしながら児童生徒の学力向上に取り組む様子を、積極的に紹介したいと考えております。

今年度は、10校の取組を紹介します。



草加市立新田小学校の取組

1 本校の概要

本校は草加市北部に位置し、住宅地と商業地の中に学区が広がっている。児童数 476 名、学級数 17 学級（通常学級 15 学級、特別支援学級 2 学級）の、開校 143 年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。「信頼と伝統」をキャッチフレーズに学校教育目標「生き生き元気、伸び育つ新田っ子よく学ぶ子・思いやりのある子・たくましい子」の具現化に努めている。研究課題を「いきいき元気!自ら考え表現する児童の育成」と設定し、算数科授業研究、さらに「小中一貫教育」の研究を進めている。

われらの学校自慢

★相撲が強い

本校では、県・市内相撲大会において常に上位の成績を取めている。また、その他のスポーツ大会にも積極的に参加し、優秀な成績を取めている。

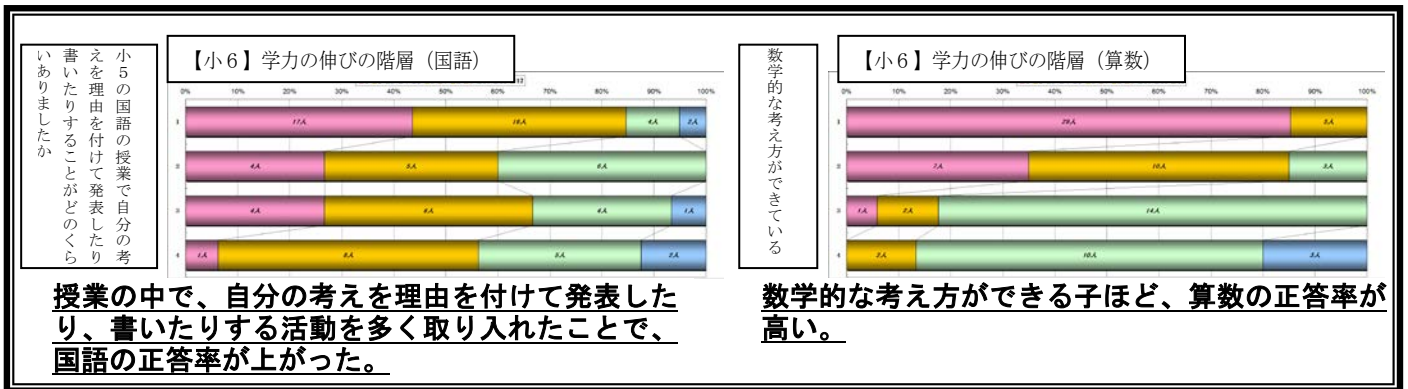


★図書ボランティアが大活躍

2つの団体による「読み聞かせ」が日常的に行われている。朝読書や業間休み、学期1回の1単位時間で行っている読み聞かせを全学級の児童が楽しみにしている。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 基礎基本の確かな定着と日々の授業改善

5校時前 10分間で全校一斉に行う「基礎基本タイム」、学期初めの「漢字博士賞」、年3回本校会場による「漢字検定」を実施している。さらに教職員の専門性と学年で統一した指導を目指し、高学年において「一部教科担任制」を導入している。徹底・確実な定着・見届けを大事に指導している。

(2) 基本的な生活習慣の徹底

年度初めの懇談会において「家庭学習の手引き」を配布し、担任から保護者に直接「家庭学習の取組」について説明し協力の依頼をした。また年5回「家庭学習強化週間」を中学校の中間・期末テストに合わせ設定している。「家庭チェックシート」では学習面と共に生活面の項目を設けた。

(3) 教職員の共通理解

各種調査の分析・課題把握の場を設け、課題に視点を当てた授業改善について共通理解を図った。教職員の意識向上が図られ、指導内容が統一できたことで、教育効果を高めることができた。教職員の学校評価においても、学習面、生徒指導面共に昨年度と比較して達成率が上がった。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・今後、中位層・下位層児童の伸びの分析・追跡をしていくと共に、学力の伸びがみられない児童にターゲットを置いた手立てや指導のあり方を見直し、改善を図っていく。
- ・幅広い思考力をもった児童、応用力のある児童を育成するための手立てを講じていく。



和光市立第二中学校の取組

1 本校の概要

本校は、県南部に位置し東京と隣接している。本年度は、開校 50 周年を迎える学校である。校区に3つの大きな集合住宅グループがあり、その生徒が大部分を占める。校訓「正しく 強く 美しく」のもと全職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。

今年度からの研究主題を「生徒が主体的に活動する授業づくり ～アクティブ・ラーニングの活用を通して～」と設定し、授業研究を中心に進めている。また、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを充実させ、全員にわかりやすい授業も行っている。

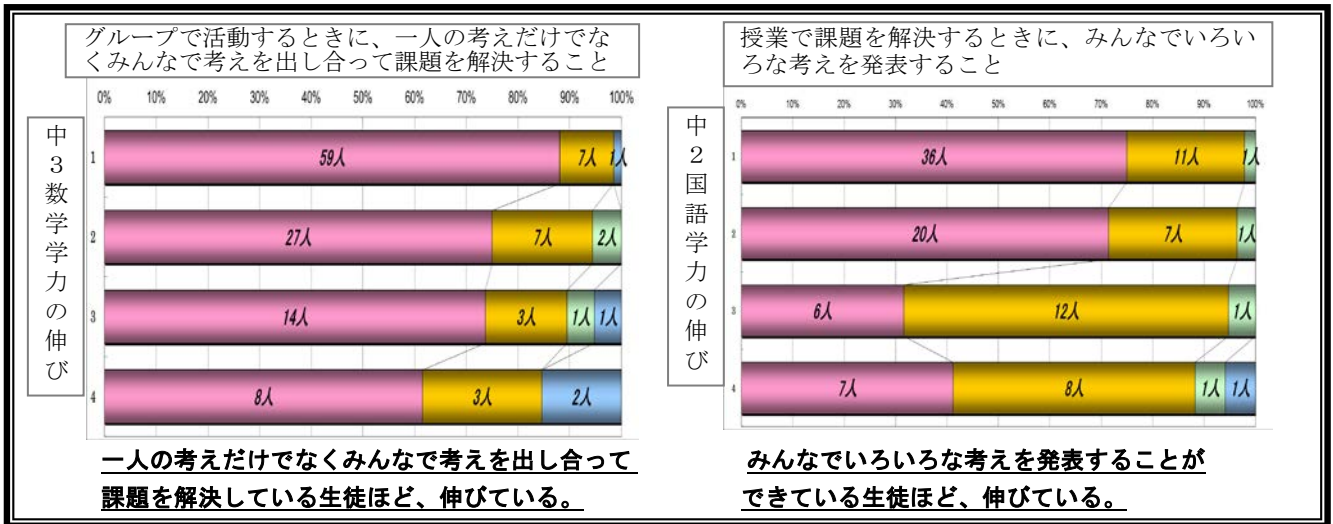
われらの学校自慢

☆ふたつのあいさつ運動

地域ぐるみで行うあいさつ運動は、毎学期の初めに5日間、市長、教育長をはじめ保護者、教員、児童・生徒が校内外で行います。生活委員会が主体になって行うあいさつ運動は、毎週水曜日の朝、生活委員会と部活動の生徒が中心になって行います。地域や保護者の方からは「気持ちよくあいさつしてくれます」と評判になっています。生徒も「あいさつができる学校」と誇れるほどになっています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 国語科では、4人組を基本とした小グループでの話し合い活動を授業に取り入れている。話し合い活動を充実させるために、課題を明確にすることや話し合いの手順などのルールを全体で確認するようにしている。話し合いの成果の共有化、課題に基づいた振り返りも意識して行っている。
- (2) 数学科では、4人組を基本とした小グループで、問題の解き方を伝え合う活動を取り入れている。教師の説明の時間を最小限にし、生徒が自分の言葉で伝え合い発表し合える学びの授業を行っている。問題練習時間の確保、小テストや計算力テストの実施、自己評価表や課題の点検も行っている。
- (3) 英語科では、コミュニケーション活動を毎時間授業に取り入れている。今まで習った文法や表現を使って1分間英語で話す活動である。セクションごとに自分の思いや考えを書く英作文、会話文の並べ替えやインフォメーションギャップ、ジグソー活動にも取り組んでいる。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・あまり学力が伸びていない生徒や中位層の生徒に対する指導は、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを充実させ、全員に分かりやすい授業を実践していく。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、生徒が主体的に活動する授業へ改善を図っていく。



日高市立高萩北小学校の取組

1 本校の概要

本校は昭和53年4月1日に開校し、39年目を迎える。全校児童数807名、学級数26の大規模校である。学区は鶴ヶ島市、川越市に隣接し日光街道杉並木が中央を通る。新興住宅地と農地が混在する緑豊かな平地の中にある。

○かしこく[言葉を大切に作る子]○あたたかく[笑顔あふれる子]○つよく[自分に負けない子]を学校教育目標に掲げ、学校研究を「基礎基本を身に付けさせるための学習環境づくり」と定め、ユニバーサルデザインに視点を当てた授業づくりを進めている。

われらの学校自慢

本校では、異年齢による様々な体験活動や交流活動を通して自尊感情や他者に共感する能力を高め、豊かな人間関係の礎を築く取組を推進している。特に中学校との授業交流や高校生とのあいさつ運動・体験学習、公民館活動「ふれあい音楽会」への参加、地域の方との花植え活動など、異校種間、地域の交流活動に積極的に取り組んでいる。子供たちは明るく、元気にそして素直な心で毎日の学校生活を送っている。

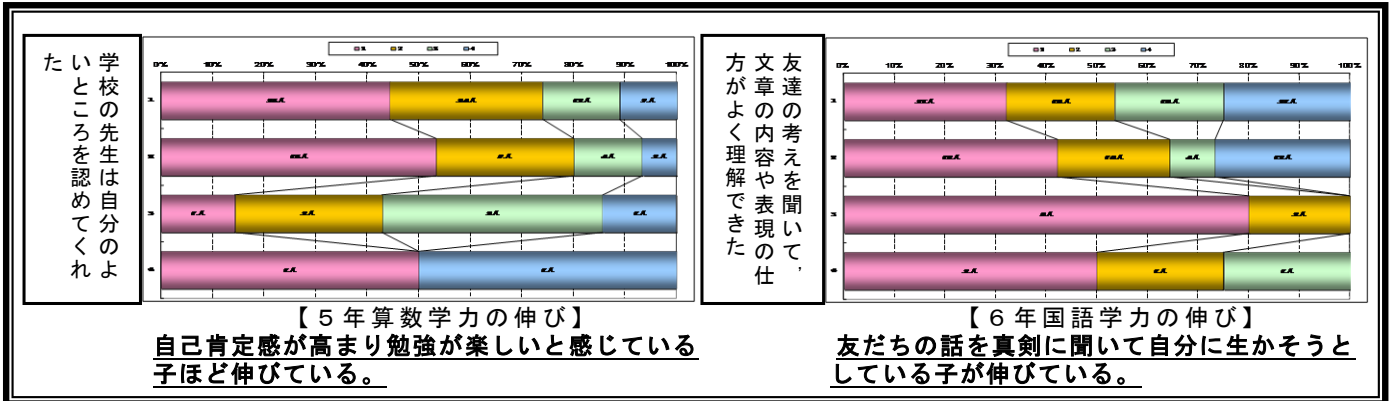
「あいさつは北小の宝」を合言葉に子供たちは自ら進んで家庭・学校・地域に挨拶の輪を広げている。



【中学生授業交流】

【地域の方と花植え】

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 学習規律・学習習慣の育成

・「北小みんなの学習規律」「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、学校と家庭が連携して学習に集中できる環境を確保し、ルールの中で互いに認め合い、学び合うことを全学年で徹底した。

(2) 個々の課題を意識させ伸びを認める

・スキルタイムや授業において、教師が個々の児童の到達度を常に意識して対応し、伸びを認めほめる態度を示すことで安心感が培われ、児童が自ら取り組もうとする姿勢が生まれた。

(3) 1時間の流れの確立

・各授業時間で「めあて」を明確にし、学習の見通しを持たせ児童の言葉で「まとめ」をし、学びの実感を伴った授業を行った。
・授業中の児童の集中力が高まるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を推進した。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・家庭学習を2時間以上行う児童が増えたが、全くやらない児童も1割いる。さらに家庭学習に家庭と連携して取り組む。
- ・学習用具の忘れ物がなくなるよう、学級内での整理整頓や学習準備の習慣化を図る。
- ・日常の学校生活において、主語・述語、敬語や修飾語など、言葉のきまりを児童に常に意識させて言語環境の充実を図る。

北小みんなの学習規律

	低学年	中学年	高学年
授業前	次の授業で使うものを机の上に置いておく。		
あいさつ	いすを直してまっすぐに立ち、大声で挨拶の言葉を言う。目を見て、笑顔で挨拶をする。挨拶が終わったら、机の上を掃除する。		
聞く	話している人に目を合わせて最後まで聞く。		
話す	話し終わったら、うなづきをする。自分の話の順番が来たとき、自分の名前を呼ばれるまで待つ。		
書く	机の上で書く。姿勢を正しく書く。書く順番が来たとき、自分の名前を呼ばれるまで待つ。		
あいさつ	「これで、1時間目の授業が終わりです。次の授業の準備をお願いします。」		
授業後	次の授業で使うものを机の上に置いておく。		



鶴ヶ島市立南中学校の取組

1 本校の概要

本校は鶴ヶ島市の南部に位置し、昭和 61 年 4 月、鶴ヶ島市の人口急増に伴い新設された、今年度 32 年目を迎えた学校である。生徒数は 257 人、学級数は 9（特 1 含む）学級である。

目指す学校像を「生徒の笑顔が輝く学校」とし、具現化するために「『き（聴・訊）き合い』『つなぎ合い』『学び合う』教育の創造」をビジョンに「学び合い学習」に取り組み今年度で 4 年目を迎えた。

また、小・中学校間連携推進校として授業研究や教職員研修をはじめ地域住民参加の諸会議等を隣接する南小学校と合同で実施するなど 9 年間を見通した取組を数多く行っている。

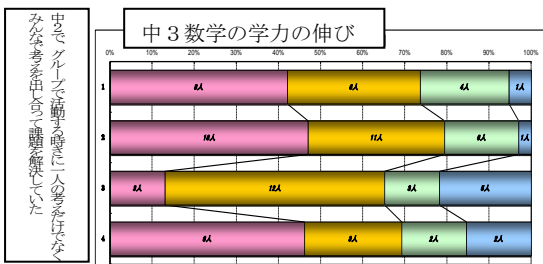
われらの学校自慢☆♪家庭・地域と連携した「体験的な学習」の取組♪☆

本校では、地域行事や防災訓練の運営ボランティア、地域住民及び地域機関の協力を得て実施する「赤ちゃんふれあい体験」、文化祭における体験講座への地域人材の活用等、地域と学校のボランティア活動の相互乗り入れが活発に行われている。特にボランティア活動参加者は、年間で延べ 180 名を超え、家族も子供を「地域行事に参画させることが当たり前」という意識が根付いている。

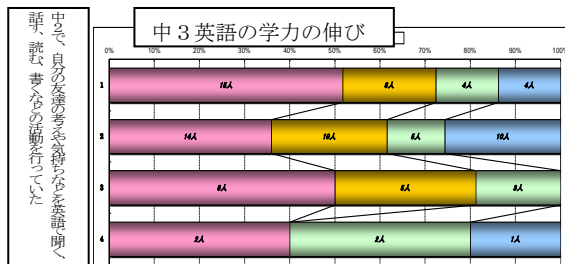
ボランティア活動が生徒と地域住民の絆をより一層深め、「子供は地域全体で育てる」という土壌が培われている。さらに地域行事の活性化や非行防止にも大いに貢献している。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



グループで活動する時一人の考えだけでなく、みんなで考えを出し合って課題解決をしている生徒ほど伸びている。



自分の友達や考えや気持ちを英語で聞く、話す、読む、書くなどの活動をしている生徒ほど伸びている。

3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 学び合いの取り組み

鶴ヶ島市の「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」の取組の一つである「学び合い学習」については、本校でも学校研究として取り組んでいる。全教科においてグループで取り組む課題を設ける展開を工夫している。基本は一人で取り組むが、わからないときにすぐに訊ねられる仲間がいることで、学習の行き詰まりを打開し意欲を持ち続けられる効果がある。訊かれた側はきちんと教えることにより、説明する力を伸ばし、より深い理解につながる効果がある。温かい人間関係が基盤となり、個々の学力を伸ばすことにつながっている。

(2) 数学の取り組み

現 3 年生においては、1 年時に週 4 回の T.T.授業、2 年時では少人数指導、3 年時には週 2 回の T.T.授業を実施している。また、2 年時より授業内容をプリント化し、個人の習熟度を考えた指導も行っている。授業形態の工夫と学び合いの活用により、個々の学力を伸ばすことにつながっている。

(3) 英語の取り組み

4 人グループによる、「学び合い学習」のスタイルをとっているため、苦手な生徒も授業に参加できる。音読のペアワークも取り入れている。



「学び合い学習」(4 人組)

4 分析を踏まえた今後の取組

コの字型の机配置や 4 人組の「学び合い学習」をさらに定着させ、生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりを行っていく。

「追究がある」授業づくりを目指して、「基本課題→ジャンプ課題」の授業デザインを効果的に取り入れた授業づくりをしていく。



三芳町立三芳東中学校の取組

1 本校の概要

本校は、三芳町の東部に位置し、本年度は開校 40 周年を迎える学校である。全校生徒数は 448 人、学級数 12 の中規模校である。

学校教育目標「心豊かな生徒、意欲的に学ぶ生徒、たくましく生きる生徒」のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度からの研究課題を「課題解決に向けた組織的な取組」と設定し、教員の授業力向上のため授業研究を中心に進めている。

われらの学校自慢

- 東中プライド
- ・気持ちのよい挨拶
- ・感動的な行事
- ・本気の授業

生徒が誇りをもって学校生活を送れるように生徒の実態をもとに、左のように東中プライドを掲げています。特に学校行事では、「体育祭」、「けやき祭」、「合唱祭」を三芳東中三大大行事として、伝統的に生徒が主体的に取り組み、自主・自律の精神を養っています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴 正答率（県平均との差）

	国 語		数 学		英 語	
	H27	H28	H27	H28	H27	H28
1 年	3.1	1.6	7	4.5		
2 年	-1.6	0.8	2.2	8.3	1.5	4.5
3 年	0.5	0.1	-0.1	4.2	-0.6	2.9

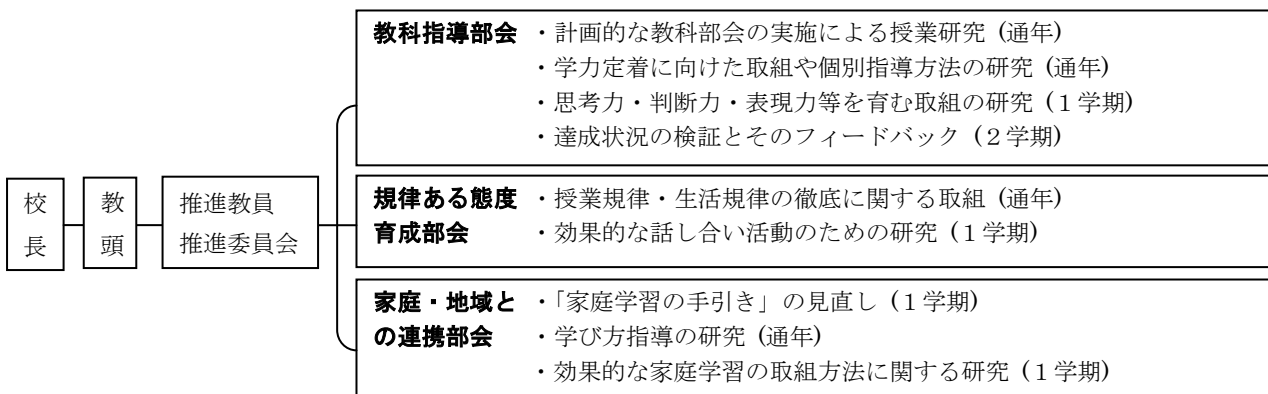
県学力・学習状況調査では、全ての学年・教科において、県の平均正答率を上回り、1 項目以外は、その差も大きく伸びている。一方、「書く・表現する」ことに苦手意識が見られ、さらなる言語活動の充実が課題である。今後は、現状の取組を維持しつつ、授業の充実、さらなる授業力の向上が重点課題となる。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 教師の授業力を向上させるため、教科部会を充実させ、学力向上に向けた具体的な取組内容の共通理解を図るとともに、全教員による相互授業参観や研究授業を随時実施し、よい点や改善点について協議した。また、思考力・判断力・表現力等を育むため、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践を公開し、授業改善を図った。
- (2) 前時の振り返りや、確認テスト等により学習内容の定着度を確認し、定着するまで繰り返し指導し見届ける個別指導の実施や、定期テスト・全国学調・県学調等の結果を分析・活用し、課題を解決するための取組を組織的、計画的に実施した。
- (3) 適度な宿題を課し、その点検を行う取組や、「家庭学習の手引き」の活用・見直し、「学び方指導」の徹底等を学校全体で行い、学習習慣の確立を図った。

4 分析を踏まえた今後の取組

「教科指導の充実」、「規律ある態度の育成」、「家庭・地域との連携による家庭学習の充実」が総合的に高まることで、学力向上が推進されるであろうと考え、以下のような組織で取組を行う。



教科指導部会

- ・計画的な教科部会の実施による授業研究（通年）
- ・学力定着に向けた取組や個別指導方法の研究（通年）
- ・思考力・判断力・表現力等を育む取組の研究（1 学期）
- ・達成状況の検証とそのフィードバック（2 学期）

規律ある態度育成部会

- ・授業規律・生活規律の徹底に関する取組（通年）
- ・効果的な話し合い活動のための研究（1 学期）

家庭・地域との連携部会

- ・「家庭学習の手引き」の見直し（1 学期）
- ・学び方指導の研究（通年）
- ・効果的な家庭学習の取組方法に関する研究（1 学期）



上里町立上里東小学校の取組

1 本校の概要

本校は新しくできた住宅地にある学校で、創立 41 年を迎えた。児童数は 680 名で、保護者の教育への関心も高く、教育活動に協力的な地域の人が多い。上里町の子供たちを育てる合い言葉「あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃」を徹底し、「かしこく、なかよく、たくましく」を学校教育目標として、教職員一丸となって、児童の健やかな成長のため、日々取り組んでいる。

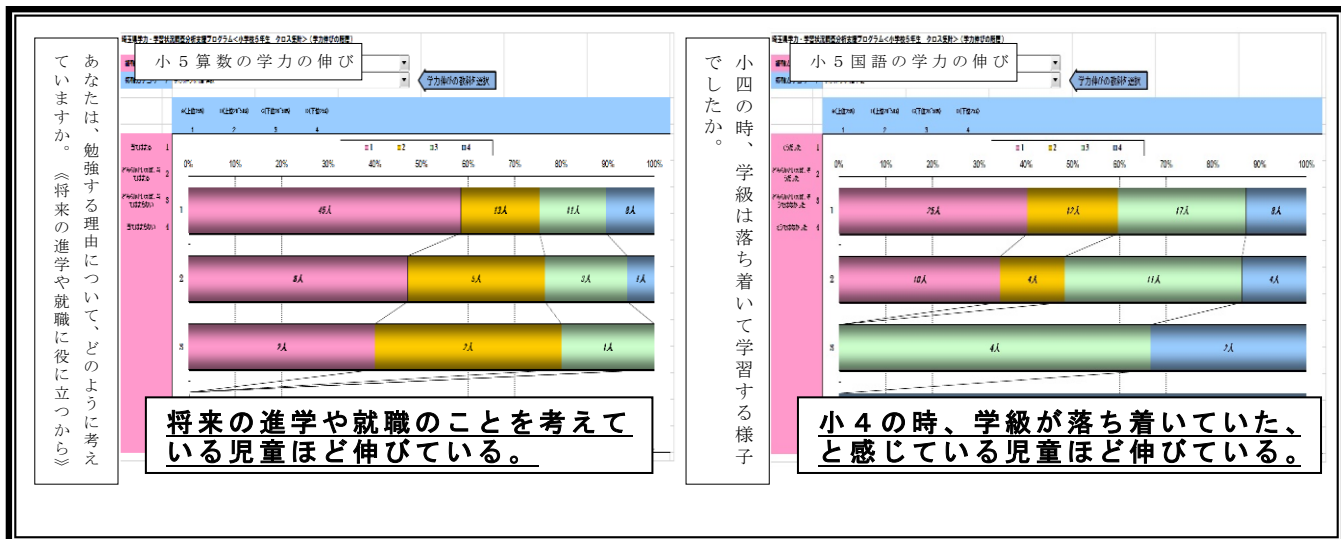
われらの学校自慢 縦割り班活動で仲間がいっぱい！

本校では、異学年のグループで集会活動を行っている。児童朝会や業間時の東っ子タイム、11月の「かえで祭り」では、3年生以上のクラスが総合的な学習の時間で学習したことをもとに展示やゲームを工夫し、異学年グループで活動している。当日は、学校応援団の方々もお招きし、感謝の会も開催している。



【かえで祭り】

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか。
《将来の進学や就職に役に立つから》

将来の進学や就職のことを考えている児童ほど伸びている。

小4の時、学級は落ち着いて学習する様子でしたか。

小4の時、学級が落ち着いていた、と感じている児童ほど伸びている。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 教師の言葉遣いや学習に役立つ掲示物等、落ち着いて学習に集中できる環境づくりを行った。
- (2) 1時間に机間指導を3巡することを心がけ、児童一人一人に応じた声かけやヒントカードを工夫した。
- (3) デジタル教科書や書画カメラ、タブレットPC等を活用して、視覚から児童の意欲を高める授業を行った。
- (4) 児童の実態に応じた個別の学習プリントを用意して、繰り返し取り組ませた。
- (5) 家庭での学習を奨励し、自主学习ノートに学習時間を記録させ、1冊仕上げるごとに賞状（校長賞）を渡した。



【書画カメラの活用場面】

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・ 調査結果を活用し、児童の興味・関心を高める声かけや個別の支援を継続していく。
- ・ 算数の学習では、学校として統一した授業のスタイルが定着している。今後は国語の授業などでも校内授業研究会で研修したことを活かし、授業スタイルを定着していく。
- ・ 授業の中に友だちと考えを聞き合うことや探究することを取り入れ、児童相互に学び合う授業づくりを通して、児童の学力向上を図っていく。



皆野町立皆野中学校の取組

1 本校の概要

本校は、秩父盆地の北部に位置し、清い流れの荒川を眼下に望み、四季折々の美しさを見せる美の山を仰ぐ、自然環境に恵まれた学校である。今年、創立 54 年目を迎えた学級数 10(うち特別支援学級 1)、生徒数 260 名の中規模校である。

学校教育目標に、「学ぶ意欲をもち、心豊かに、未来をたくましく生きる生徒の育成」を掲げ、『チーム皆中』を合言葉に、全職員で取り組んでいる。本年度は研究課題を「将来への基礎的・汎用的能力を高める『学びの姿勢』づくり～キャリア教育を中心に据えた学力向上の研究～」と設定し、キャリア教育を中心に据えた取組を行っている。

われらの学校自慢

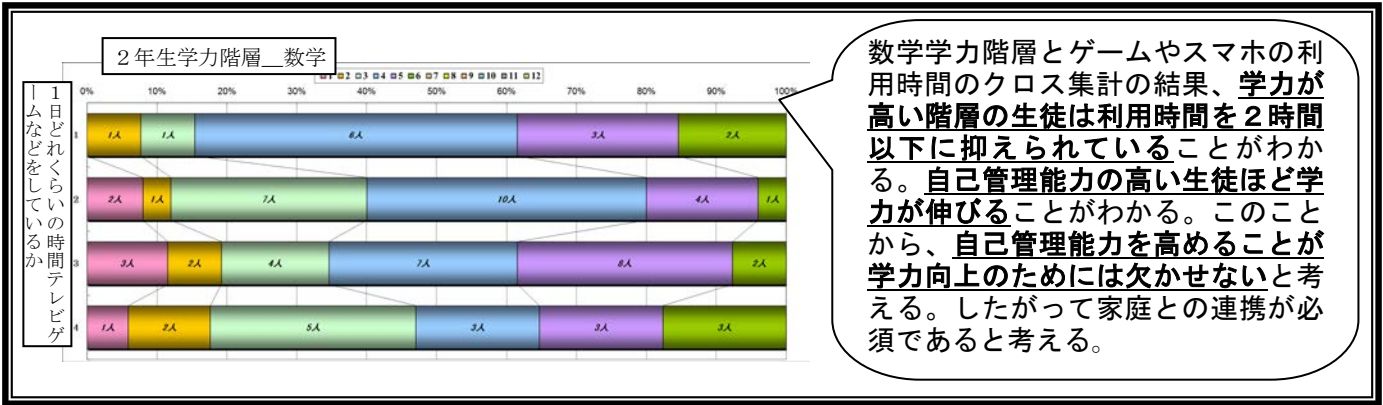
本校では、グローバル人材の育成に向けて、英語検定(英検)を活用しています。

皆野町教育委員会の積極的な支援を受けて、英検の受検者を増やしています。

さらに受検を希望する生徒には、「英検受かる会」と題した学習会を開き、英検合格率の向上を目指した取組を行っています。



2 分析支援プログラムから見る本校の特徴



3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 授業規律・環境面の取組として、ユニバーサルデザインの視点に立った、黒板の周辺のレイアウトや、生徒の作品の掲示の工夫、授業道具の整理整頓などに取り組んだ。
- (2) 授業改善に取り組むために、「皆中スタンダード」という、授業づくりの基本的なスタイルをつくり、生徒にわかりやすい授業、魅力的な授業の構築に努めてきた。
- (3) キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力を本校では6つのスキルに分け、6 skills と銘打って、授業の初めに明示し、授業におけるキャリア教育に取り組んだ。
- (4) 地域・家庭連携では、「家庭学習の手引き」や「学力向上だより」を発行し、家庭や地域の協力を得られるようにした。
- (5) 皆野町教育委員会で作成した全町共通の「皆野っ子自主学习ノート」を活用し、家庭学習の充実を図った。これは生活ノートも兼ねており、担任の負担軽減にもつながっている。
- (6) 部活ごとに長期休業中に課題のチェック日を設定し、計画的に取り組ませる体制を整えた。
- (7) 支援が必要な生徒に対して、担任以外の教師が関わりを持ち、人間関係を大切にしながら、毎日プリントを渡して指導を行う「個別支援プログラム」を行った。

4 分析を踏まえた今後の取組

- 「皆中スタンダード」を踏まえた授業改善、6 skills を活かした授業改善
- 家庭との連携による家庭学習の充実とスマホ、ゲームなどの利用時間の制限
- 「個別支援プログラム」の効果的な指導方法の改善



行田市立中央小学校の取組

1 本校の概要

本校は埼玉県北部、東京都心から60km圏に位置し、行田市の中心部にある。本校教育の源流は、天保7年(1836)に桑名の藩校であった進修館を忍で再興し、藩士の子弟を学徒として教育にあたらせたことに始まり、その歴史は古い。地域住民の学校に対する関心が高く、本校は、地域のコミュニティーの場として期待され、学校への協力体制も確立してきている。また、緑豊かな環境に恵まれ、児童はのびのびとおおらかに育っている。本校のシンボルツリー、赤松を構える「歴史の森」を中心に、樹木オリエンテーリングやビオトープを活用した水中生物観察などの活動や体験を通して、身近な自然に親しみ、そのすばらしさや不思議さを感じ得る心を育てている。

われらの学校自慢

「歴史と緑のハーモニー」

校内には貴重な歴史的建造物が多く残されている。歴史の重みを感じながら、歴史と緑の調和を大切にしている。本年度は「全日本学校関係緑化コンクール」に県より小学校の部代表として推薦していただいた。

歴史の森



「礼儀・礼節を重んじ、師を敬う教育」

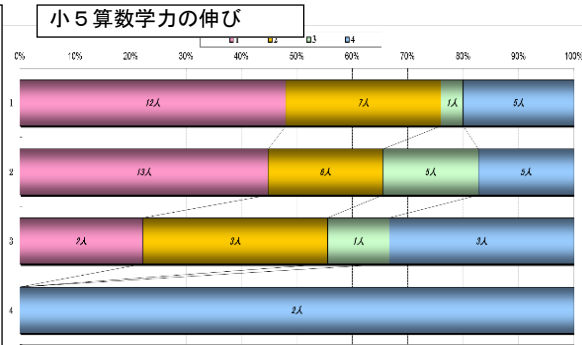
本校は、藩校「進修館」教学の精神を生かした教育を大切にしている。「すべての基本は授業から」を第一に掲げ、授業規律を大切にしながら文武両道を目指して日々取り組んでいる。現在、地域や風土の特色が何世代にもわたって育まれ、教育を重んじる中央小の形が形成されている。



礼3息

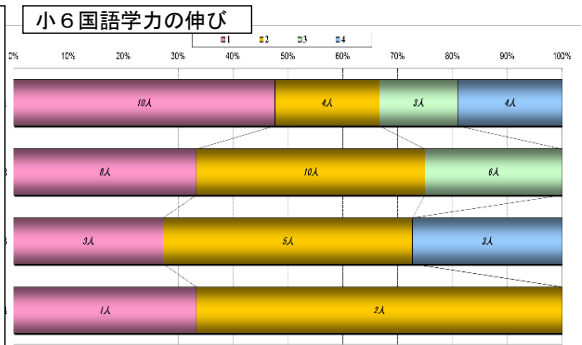
2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

授業で課題を解決するとき、みんなでいろいろな考えを発表すること



課題解決の時、みんなで色々な考えを発表することに充実感を感じている子ほど伸びている。

自分の考えに理由をつけて発表したり、書いたりしていること



自分の考えに理由をつけて発表したり、書いたりしている子ほど伸びている。

3 伸びを引き出す効果的な取組

- (1) 授業規律の徹底のための「学びの名人」や、中央小3つのじまん「あいさつ・そうじ・言葉づかい」の確実な推進のための「さわやか名人」を作成し、全教職員で共通理解・共通行動をしている。
- (2) 「中央小算数の進め方」を「練習型」と「話し合い型」の2種類を作成し、単元に応じて全教職員の共通理解のもと、これらの授業の基本形で授業を進めている。
- (3) 「根拠を基に自分の言葉で伝え合う児童の育成」のために「～です。そのわけは、～だからです。」と結論、理由の順に発表させる。



中央小のぞうぎんがけ

根拠を基に説明

4 分析を踏まえた今後の取組

- (1) 学力テストの結果を受けて、研究推進部において結果の分析と方策を話し合い、学習指導部、学習環境部と連携した実践を、全教職員で徹底して行っていく。
- (2) 児童のゴールの姿を明確にし、算数では練習時間をしっかり確保し確実な習得を図る。
- (3) 毎週木曜の朝の時間をスキルタイムとして、テストにおいてつまずきが見られたところの対策プリントや基礎プリントに継続して繰り返し取り組んでいく。



羽生市立岩瀬小学校の取組

1 本校の概要

本校は、「岩瀬グローバルタウン構想」という再開発計画を進めている地域の学校で、今後の児童数増も見込まれることから注目を集めている学校である。

学校教育目標「よく考える子 助け合う子 たくましい子」のもと、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。昨年度からの研究課題を「積極的にコミュニケーションを図る児童の育成～英会話科・外国語活動を通して～」と設定し、授業研究を中心に進めている。

われらの学校自慢

☆英語教育の推進☆

本校では、昨年度より文科省の教育課程特例校として、全学年で英語教育の研究を行っている。ALT が常駐し、授業以外にも、集会・給食・休み時間など子供たちとたくさんかわることで、コミュニケーション力の向上に努めている。



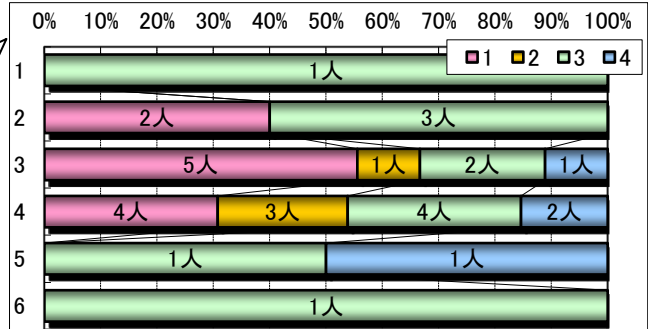
2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

縦軸：家庭での学習時間

- 1. 3 時間以上
- 2. 2 時間以上 3 時間未満
- 3. 1 時間以上 2 時間未満
- 4. 30 分以上 1 時間未満
- 5. 30 分未満
- 6. 全くしない

横軸：学力の伸びの階層（算数）

- 1. 上位 25%
- 2. 上位 26~50%
- 3. 下位 26~50%
- 4. 下位 25%



家庭での学習時間の長い子の方が算数の伸びがよく見られる傾向がある。

3 伸びを引き出す効果的な取組

(1) 全学年でのドリルの統一及び学期末テストのイベント化

全学年で使用する漢字・計算ドリルを統一し、指導法についての研修を行った。また、学期末テストを自作し、全校イベントとして行っている。テスト範囲が明確になり、テスト勉強の習慣が身に付いた児童も多い。合格できなかった児童には、補習と再テストを行い、全員合格を目指している。

(2) 岩瀬小スタンダードの確立

①授業規律の確立、②「めあて」と「まとめ」の重視と可視化、③発問と板書の工夫など、授業力向上に向けて研修を行い、全教職員で共通理解を図り、これらを意識した授業実践を行っている。また、振り返りシートを活用し、定期的に授業の振り返りを行っている。

(3) 家庭との連携

- ①「学力向上だより」の配布…学習方法や全国学調の問題・考察等を伝え、保護者に啓発している。
- ②家庭学習習慣の確立…PTA連携事業として家庭学習習慣付けシート「さわやか」を作成し活用している。

(4) 読解力を高める「ミニ読書感想文」

毎月全クラスで自分の読んだ本の感想を短くまとめている。代表は学年黒板に掲載される。

4 分析を踏まえた今後の取組

- ・学力の伸びが大きく見られた児童の要因を調べ、全体指導の改善へと結び付けていく。





八潮市立潮止中学校の取組

1 本校の概要

本校は八潮市の南部に位置し、本年度で開校 37 年目を迎える。全校生徒数 444 名、学級数 15 の中規模校である。つくばエクスプレス開通に伴い、八潮駅に近い立地から本校学区ではマンションの建設や宅地化が急速に進んでいる。

学校教育目標「自ら学び 考え 進んで実行」のもと、家庭や地域との連携を深めながら、小中一貫教育を推進してきた。潮止中ブロック 3 校では、年 3 回のジョイント教室やジョイント研修等を実施し、児童生徒、教職員の交流を計画的に行いながら、系統的・継続的な指導を推進し、小・中学校間の連結をより滑らかにしている。

われらの学校自慢

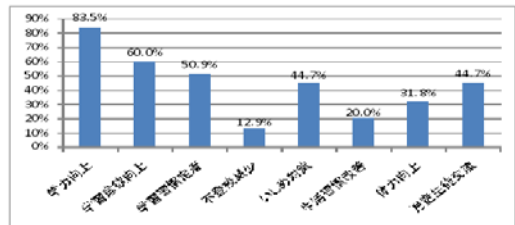
①ノーチャイムでの生活（生徒アンケートより）

- 一人一人が時間よりも前に動けるように心がけている。
- 生徒同士がお互いに時間を守るように声をかけることができ、仲の良い学校になるようにしたい。
- 生徒が時計を見て時間を守る習慣が身に付くようにしたい。



②潮止中ブロック小中一貫教育

- 児童生徒ジョイント教室、教員ジョイント研修
- 小中合同研修会
- 小中高合同保健委員会、小中合同あいさつ運動
- 小学校夏季学習会の中学生ボランティア



保護者アンケートから

「小中一貫教育に期待するものは何ですか？」→

2 分析支援プログラムから見る本校の特徴

考える

中3 数学の学力の伸び

（中2 数学）自分の考えを理由を付けて発表したり、書いたりできたこと

自分の考えや理由をつけて発表したり、書いたりできる生徒ほど数学の学力が伸びている。
（数学/中2 → 中3）

深める

中3 数学の学力の伸び

（中2 数学）グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなの考えを出し合って課題を解決すること

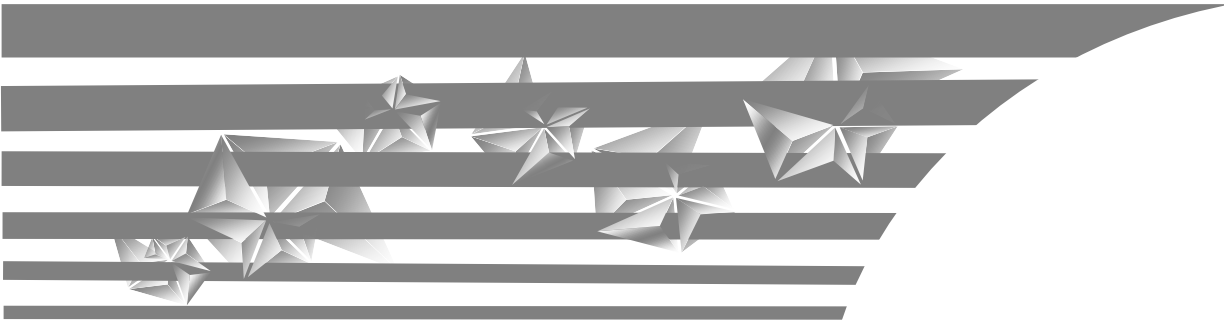
課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを共有している生徒ほど数学の学力が伸びている。
（数学/中2 → 中3）

3 伸びを引き出す効果的な取組

- 八潮全市で、「八潮スタンダード」（思考力・応用力を高める基本的な授業展開案）を踏まえた指導を推進している。本校でも、全教科で「つかむ・見通す、考える、深める、まとめる」という流れを意識し授業改善を進めている。
- 「3 教科 6 つの取組」を各教科で継続的に実践している。
 - 数学科では、話合う時間・機会の確保、自分の考えや意見を発表する指導に力を入れている。
 - 国語科では、基礎学力向上のため、漢字学習や短い作文指導などの時間を確保している。
 - 英語科では、「将来の夢について」など、1 文書く機会を毎時間工夫している。

4 分析を踏まえた今後の取組

- 無解答率に注目し、教科・出身小学校との関係性を見出しながら個別に手立てを講じていく。また、進路・キャリア教育と数学の学力との関係を分析し、学習指導に取り入れていく。
- 保護者に公開した調査結果に対する意見を集約し、学校としての課題を明確化する。さらに、「八潮スタンダード」の授業改善を踏まえ、各教科の弱点となっている領域（国語：話す聞く、数学：技能、英語：理解能力）の指導の在り方を見直し、学校として取り組んでいく。



埼玉県学力・学習状況調査報告書

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

検索

